

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-① 青少年国際交流事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
	国際社会、情報社会に対応した教育の推進						
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)	
事業内容	青少年(町内在住中学生)を海外へ派遣し、教育・文化・歴史産業などの視察学習、ホームステイ、現地の学校への体験入学を実施することで、外国に住む県人等と交流を深め、移民について学び、国際化時代に対応しうる青少年の育成を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(a) 当初予算額	3,500	4,520	3,150	4,456	4,110
	(b) 予算現額	3,500	4,261	3,150	4,456	4,110	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 259	0	0	0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	3,500	4,261	3,150	4,456	4,110	
	B. 執行済額	3,500	4,055	3,150	4,456	4,110	
	うち交付金充当額	2,800	3,244	2,520	3,564	3,288	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	95.2%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	交流事業派遣生徒数:10名	目標	(10名)	(10名)	(12名)	(10名)	
		実績	10名	10名	12名	10名	
	研修後報告会の開催	目標	(1回)	(開催)	(開催)	(開催)	
		実績	1回	1回	1回	3回	
達成状況説明	本研修は10日間の日程でハワイで実施した。研修生である中学生10名は3日間のホームステイを体験しながら3日間のミドルスクールへの体験入学に参加した。帰国後は研修報告会を開催することができた。また、事前研修から事後研修にかけて県民の移民者の歴史を学び、学んだ事を事後報告会を通して多くの方へ周知することが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(30年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
		帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	(80%)	(80%以上)	()	()
	実績			80%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	国際交流に行った生徒の保護者へアンケートを実施し、外国語や海外文化への興味を持ったと回答した割合が80%となり、目標の80%を達成できた。「新聞で海外の記事を読むようになった」、「外国への留学を目指すようになった」など、外国語への関心が高まり、海外文化に直接触れる事で「出発前以上に外国語に関わる職業への関心が高くなった」「日本の良さを改めて知ったようだ」など、これまで以上に海外文化を通して自国への関心も高くなっている事がわかった。また、英語コミュニケーション能力への向上心が上がり、積極性及び責任感も増幅し、今後も南風原町のために活動したいと思うようになったと回答を得ている。					

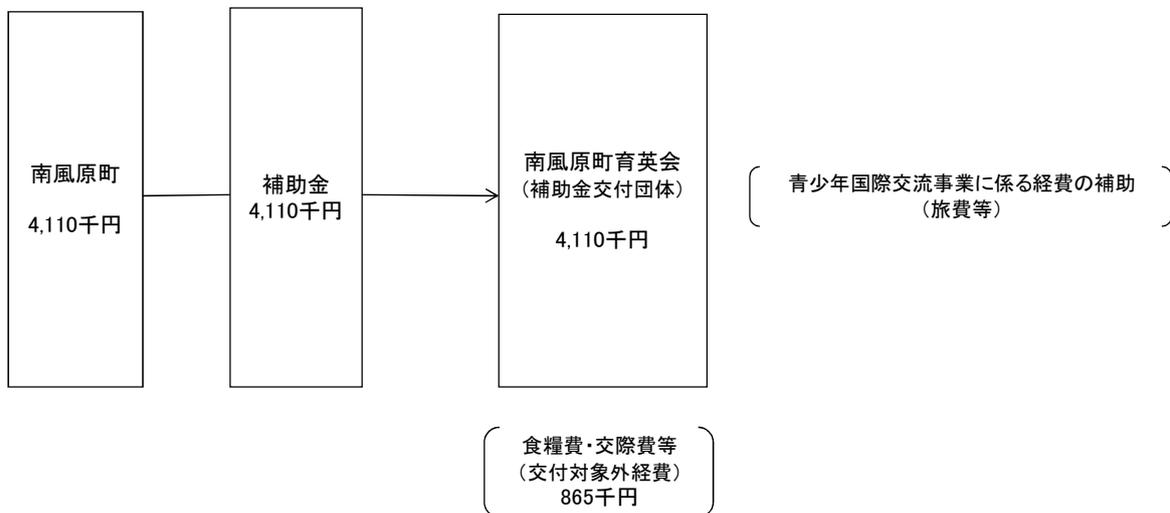
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホストファミリーの選定を研修先の南風原町人会の方に依頼するが、5家族の決定が困難を来す事がある。 ・事業を推進していくにあたり必要な範囲で事前研修や事後研修を実施しているが、保護者から回数が多いとの意見があるため、研修会の行い方について見直しの検討を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修国でのホストファミリー斡旋業者の検討を行う。 ・事前研修や事後研修を夏休み期間中の午前から午後にかけて行うなど開催の仕方を工夫する。

今後の取り組み方針

- ・令和元年度のホストファミリー決定状況を鑑みて令和2年度以降の方針を決定する。
- ・夏休みに事前研修を集中的かつ効率良く実施し、研修の回数を減らすことで派遣生徒の負担軽減を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

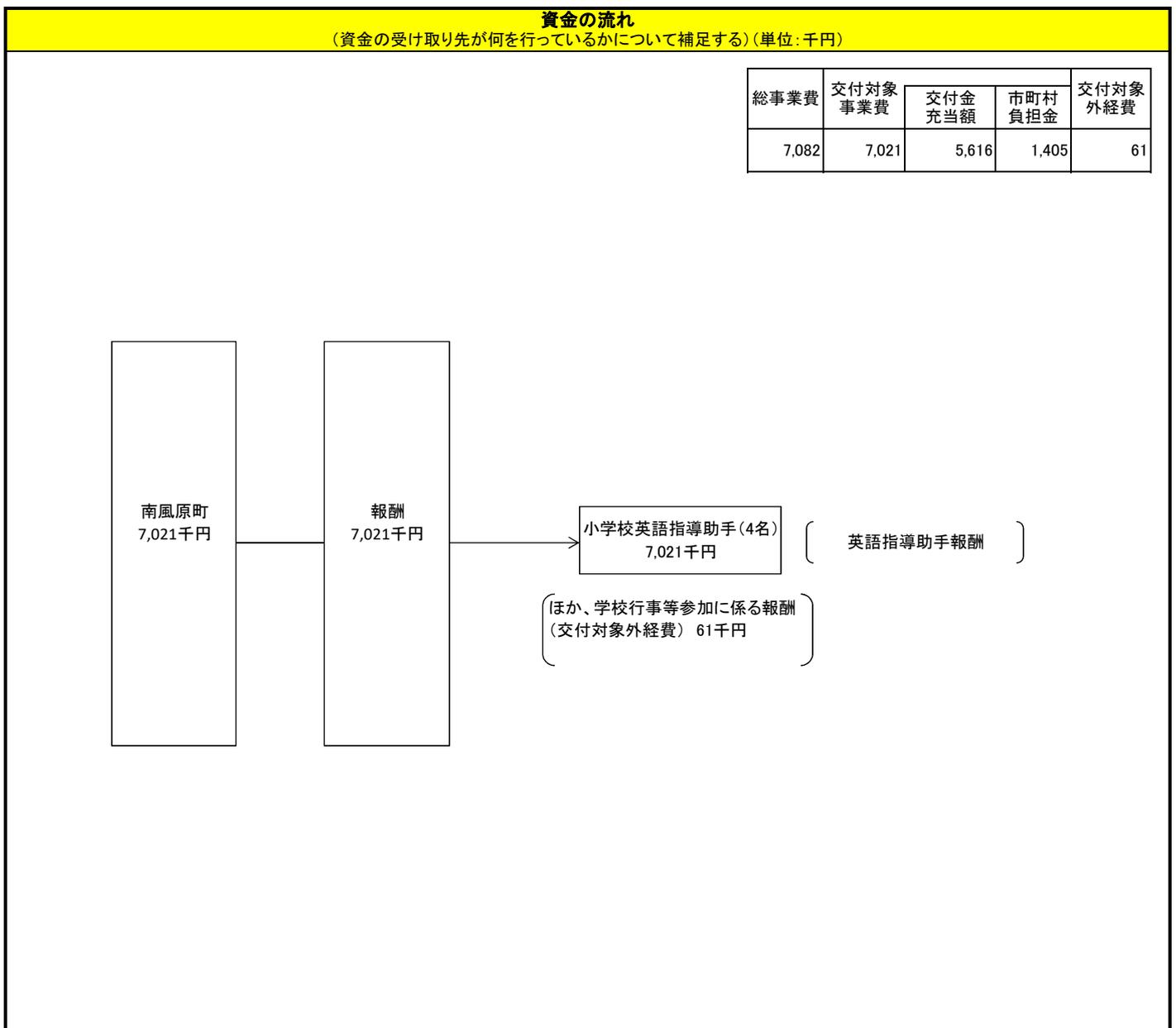
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	交付対象外経費	
4,975	4,110	822	865	



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○南風原町補助金等交付規則に基づき南風原町育英会に対して支出している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業に必要な旅費、現地で必要な経費、謝礼金等であり、不用額も無いことから適正な規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者の負担については、南風原町青少年国際交流実施要項に基づき実施しており、妥当であったと考えている。経済的負担を緩和する事で経済的な理由で参加を断念する中学生にも事業参加の機会ができると期待される。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-② 小学校英語指導助手配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
	国際社会、情報社会に対応した教育の推進			沖縄振興基本方針該当箇所	III-3-(1)		
担当部課名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度		平成24~令和3年度		
事業内容	英会話や英語圏の文化について興味を持たせるため、小学校に英語指導助手を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200
	(b)予算現額	7,200	7,200	7,200	7,184	7,169	
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	▲16	▲31	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	7,200	7,200	7,200	7,184	7,169	
	B. 執行済額	7,087	7,050	7,200	7,165	7,021	
	うち交付金充当額	5,669	5,640	5,760	5,732	5,616	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	98.4%	97.9%	100.0%	99.7%	97.9%	
予算の状況の説明	小学校英語指導助手は、嘱託職員として採用しており、町立小学校4校へ1名づつ配置している。年度当初から4人を配置することができたが、勤務日数などの理由により、執行率は97.9%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	小学校英語指導助手配置数:4人	目標	(4人)	(4人)	(4人)	(4人)	
		実績	4人	4人	4人	4人	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	町内小学校4校全てに英語指導助手を配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思ったか(80%以上)を含め、児童へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	(-)	()	()
		実績		77.10%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	3月に児童に対しランダムでアンケート調査を行った。その結果、77.1%と目標まで2.9%足りない結果となり、目標達成には至らなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・目標に届かなかった原因として、英語の発音が難しい、英語を使う場面がなかなかないなど、授業だけではなく、日常生活においても英語に触れ合う機会が少ないからと考えられる。また、英語に対し苦手意識を持っている児童もいるため、クイズ形式やゲーム感覚での授業を取り入れながら、英語に興味を持たせ、英語圏を含め外国全般に対する苦手意識を少なくしていく必要がある。</p>	<p>・英語圏を含め、外国に興味を持たせるためには、授業だけではなく学校生活や日常的に英会話を取り入れていく必要がある。また、授業においてもクイズ形式など児童が興味を引くような方法を取り入れ、楽しく学べる環境作りに努める。そうすることで、外国に対する興味の入口を広げ、外国のことについてもっと知りたい児童数の増加に繋げていく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・引き続き町内の小学校4校全てに英語指導助手を配置し、英語圏を含め外国に興味を持ってもらえるよう様々な国やその地域に住んでいる人、文化などを紹介していくなど授業内容を工夫することで、楽しく学べ、英語を好きになるような環境を整えていく。</p>		



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語指導助手の選定は採用前に面接を行い、資格や発音が正確な助手を採用しており選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目使途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払っており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町							
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-③ 学力調査等事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア			
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける教育の推進			
事業内容	学力が低い沖縄県において、本町を担う児童生徒の学力向上に向け、個々の児童生徒の学力、課題を把握するため学力調査を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	2,758	4,004	3,433	4,230	4,451	
		(b)予算現額	3,724	4,004	3,172	4,230	4,451	
		(c)増減額(b-a)	966	0	▲261	0	0	
		(d)繰越額	-	-	-	-	-	
		A.計(b+d)	3,724	4,004	3,172	4,230	4,451	
	B.執行済額		3,617	3,722	3,171	3,929	4,127	
	うち交付金充当額		2,893	2,977	2,536	3,143	3,301	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		97.1%	93.0%	100.0%	92.9%	92.7%	
予算の状況の説明		町内全ての小中学校(小学校4校、中学校2校)において学力調査を実施し、適正な予算執行を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	学力調査等の実施 小学校4校中4校 (国語・算数・5年生理科) 中学校2校中2校 (国語・数学・理科・社会・英語)		目標 (小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)	(小学校4校中4校 中学校2校中2校)		
			実績 小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校	小学校4校中4校 中学校2校中2校		
達成状況説明	目標		()	()	()	()		
	実績							
達成状況説明		・標準学力調査を、目標の小学校4校中4校、中学校2校中2校で実施できた。 ・中3学力調査を目標の中学校2校中2校で実施できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	標準学力調査の平均回答率が目標値以上の科目数 小学校:全科目/13科目 中学校:3科目以上/10科目		目標	()	()	(小学校:全科目 中学校:3科目以上)	(小学校:全科目 中学校:3科目)	()
			実績			小学校:12科目 中学校:2科目	小学校:12科目 中学校:0科目	
	県学力到達調査の平均正答率が県平均以上の科目数 小学校:全科目/7科目 中学校:全科目/6科目		目標	()	()	()	(小学校:全科目 中学校:全科目)	()
		実績				小学校:6科目 中学校:全科目		
進捗状況説明		・標準学力調査の実施により、個々の学力を把握することができ、児童生徒へきめ細やかな指導ができた。 【小学校(13教科)】目標値を達成した科目:12教科(前年12教科)。全国平均を上回った科目:11教科(前年9教科)。 【中学校(10教科)】目標値を達成した科目: 0教科(前年2教科)。全国平均を上回った科目: 0教科(前年1教科)。 ・県学力到達調査の平均正答率は小学校・中学校共に全科目を目標にしていたところ、小学校3年の国語のみ目標に届かなかったが、それ以外の教科においては県平均を上回った。中学校は全ての科目が県平均を上回った。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学力向上のため、各教科の目標値を設定し実施した。今後、目標値を達成できなかった教科については、対策を検討する。 ・中学校は目標値も全国平均も上回っていないため今後も強化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の標準学力調査は、国語・算数が全学年で目標値を上回った。5年生のみ実施の理科だけが惜しくも目標値に届かなかった。特に生命・地球の領域で「植物の花のつくりと実」、「天気の変化」についての内容の正答率が低かった。結実を確かめる実験計画についての学習と、気象衛星による雲画像と台風についての学習を繰り返し行う等、基礎基本の定着を図る取組を強化する ・中学校の標準学力調査においては全教科、目標値に届かなかった。全教科において、基本的事項の理解が足りないと思われる。基礎基本の定着を図る取り組みの他、思考力の育成に係る問題に慣れさせる必要がある。

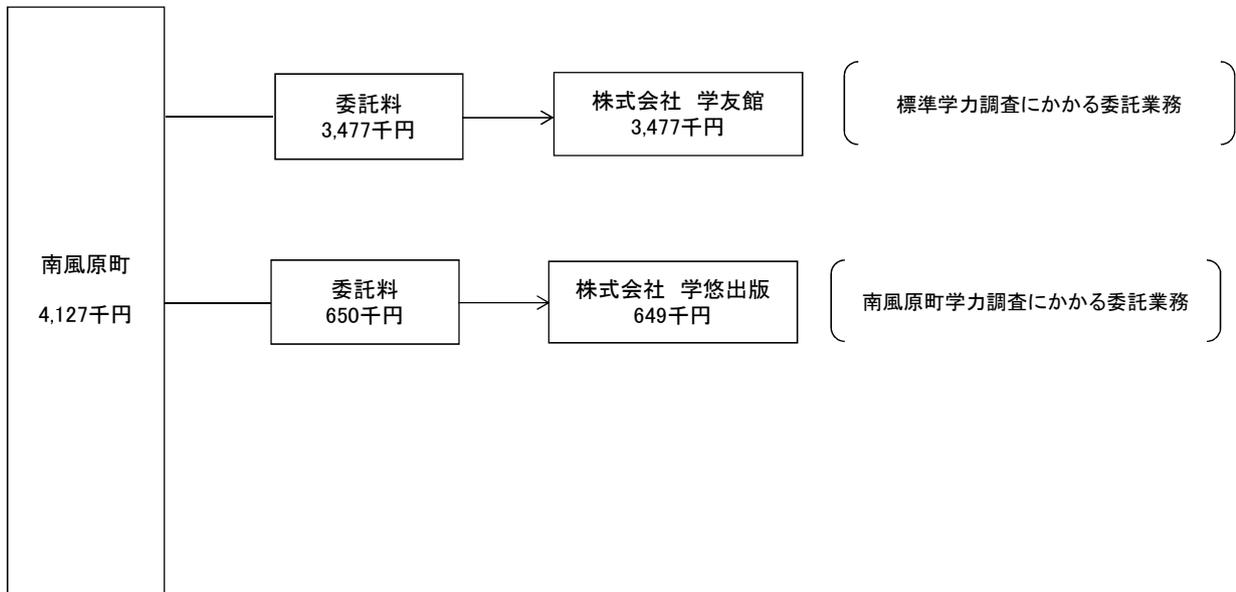
今後の取り組み方針

・小学校においては、全体的に「確かな学力」の取組の成果が出てきているので、今後も維持できるよう努める。特に、各学校の研修会により教師による授業改善を図るとともに、正答率の低い問題の分析を行い類似問題等の反復練習を行うことで基礎基本の定着を図る。また、授業の進捗と連動して宿題の量を課すことにより内容の定着を図っていく。

・中学校においては、上記取り組み(教師による授業改善、類似問題等による反復連絡等)のほか、正答率の低い生徒について補習指導を適宜行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,127	4,127	3,301	826	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○業者の選定方法は、全国で採用している市町村が多く、学力の比較がしやすい調査を実施している業者を選定し、随意契約とした。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、本事業の完遂に必要な費用に限られており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、学力調査委託料として目的に即し、受験者数に応じ支出しており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④ 学習支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
	担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進	
事業内容		通常の授業ではついていけない児童生徒の授業の理解を深め学力を向上させるために、学習支援員を配置する。					
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	15,360	26,880	26,880	24,960	24,960
	(b)予算現額	17,120	28,480	28,000	23,905	22,528	
	(c)増減額(b-a)	1,760	1,600	1,120	▲1,055	▲2,432	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	17,120	28,480	28,000	23,905	22,528	
	B.執行済額	16,480	27,771	27,863	23,879	22,258	
	うち交付金充当額	13,184	22,216	22,290	19,103	17,806	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	96.3%	97.5%	99.5%	99.9%	98.8%	
予算の状況の説明		当初、1小学校のみ他の小学校よりも1人多い3人の支援員の配置を予定していたが、不要となったため3月補正で2,432千円減額を行った。執行率については98.8%であり、計画どおり適正に執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	学習支援員配置数 小学校:8人、中学校:4人	目標	(小学校9人・中学校6人)	(小学校8人・中学校6人)	(小学校9人・中学校4人)	(小学校8人・中学校4人)	
		実績	小学校9人・中学校6人	小学校9人・中学校6人	小学校9人・中学校4人	小学校8人・中学校4人	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	小学校学習支援員は4小学校に2人ずつの合計8人を配置し、中学校学習支援員は各中学校に2人ずつの合計4人を配置することにより、予定していた人数の学習支援員を各小中学校へ配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
			標準学力調査の平均正答率が目標値以上の科目数 小学校: 全科目/4科目 中学校: 2科目以上/8科目	()	()	()	小学校:全科目 中学校:0科目
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	平成30年度は標準学力調査の平均正答率が目標値以上となることを目標とした。小学校については、全科目が平均正答率の目標値以上となり、目標を達成した。中学校については、平均正答率が目標値以上の科目は0科目で、目標を達成することができなかった。						

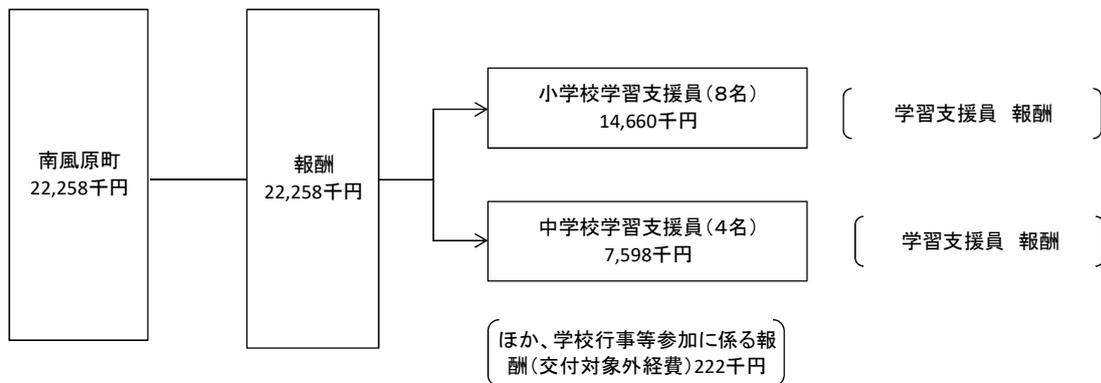
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、学習支援員による教材研究やきめ細かな指導の成果により、目標を達成することができた。 ・中学校では、8科目中2科目以上を目標としていたが、全科目目標を達成することができなかった。学習支援員の配置により、学力の向上は図られているが、結果として達成することができなかったことから、これまで以上に教諭との連携を密にし、授業におけるサポート体制や教材研究・作成を行い、苦手とする科目の克服に向けて取り組んでいく必要がある。また、テストなどを通して苦手な項目に集中的に取り組むなど授業の工夫をし、きめ細かな指導も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、今後も全科目目標を達成できるよう、担任教諭と協力し授業における教材作成やサポート体制の強化に努めていく。 ・未達成となった科目においては、基礎学力の向上はもちろんのこと、苦手な項目についても集中的に学習支援するなど、きめ細かな指導を行っていく。また、きめ細かな指導では、教材研究により答えの導き方や問題に対する読解力、生徒が理解しやすい教材を作成するなど、これまで以上の教材研究に取り組んでいく。

今後の取り組み方針

・引き続き全小中学校に学習支援員を配置し、基礎学力向上に努めることで、目標達成に向けた支援に取り組む。
 ・目標を達成していくには、苦手科目等を効果的に指導し強化を図っていく。また、担任教諭と連携を密にし、問題に対する生徒の理解力なども高めていく必要があるため、研究・作成した教材を最大限に活かし、きめ細かな指導に取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,480	22,258	17,806	4,452	222



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習支援員の選定は、採用前に面接を行い、資格や教職経験等を考慮して採用しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目使途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払っており適正である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤ 特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ		
担当部課名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進	
事業内容	通常学級で一斉指導についていけない発達障害等のある子どもに対し、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、特別支援教育支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	59,536	78,379	74,267	62,080	68,741
	(b)予算現額	50,790	78,379	57,606	51,612	59,465	
	(c)増減額(b-a)	▲ 8,746	0	▲ 16,661	▲ 10,468	▲ 9,276	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	50,790	78,379	57,606	51,612	59,465	
	B. 執行済額	46,738	58,991	55,794	48,822	57,239	
	うち交付金充当額	37,390	47,192	44,635	39,057	45,791	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	92.0%	75.3%	96.9%	94.6%	96.3%	
予算の状況の説明	全校への特別支援教育支援員配置を行ったが、中途退職・中途採用があったため執行率は96.3%となった。予定していた支援員の配置ができず欠員が生じた期間があったことから、3月補正等において9,276千円の減額を行った。また、不用額2,226千円については、計画どおり支援員を配置することができなかったことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	特別支援教育支援員配置数 幼稚園:20人、小学校:32人、中学校:5人	目標	幼稚園12名・小学校33名・中学校6名	幼稚園10名・小学校35名・中学校6名	幼稚園10名・小学校29名・中学校6名	幼稚園20名・小学校32名・中学校5名	
		実績	幼稚園11名・小学校33名・中学校6名	幼稚園9名・小学校34名・中学校6名	幼稚園15名・小学校30名・中学校5名	幼稚園延べ20名・小学校30名・中学校5名	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	小学校においては、特別支援教育支援員の応募者が足りなかったことから目標配置数に2名届かなかった。また、幼稚園においては、年度当初は目標配置数を達成できたものの、年度途中での離職により年間を通じた配置ができなかった。全体的には、目標には届かなかったが、きめ細やかな支援をすることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
			()	()	(80%)	(80%以上)	()
	対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度 80%以上	目標					
		実績			86.30%	93.80%	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	特別支援教育支援員の対応への満足度については、対象児童となる保護者へのアンケートを実施し、65名からの回答を集計した結果、満足度93.8%であり、目標を達成した。						

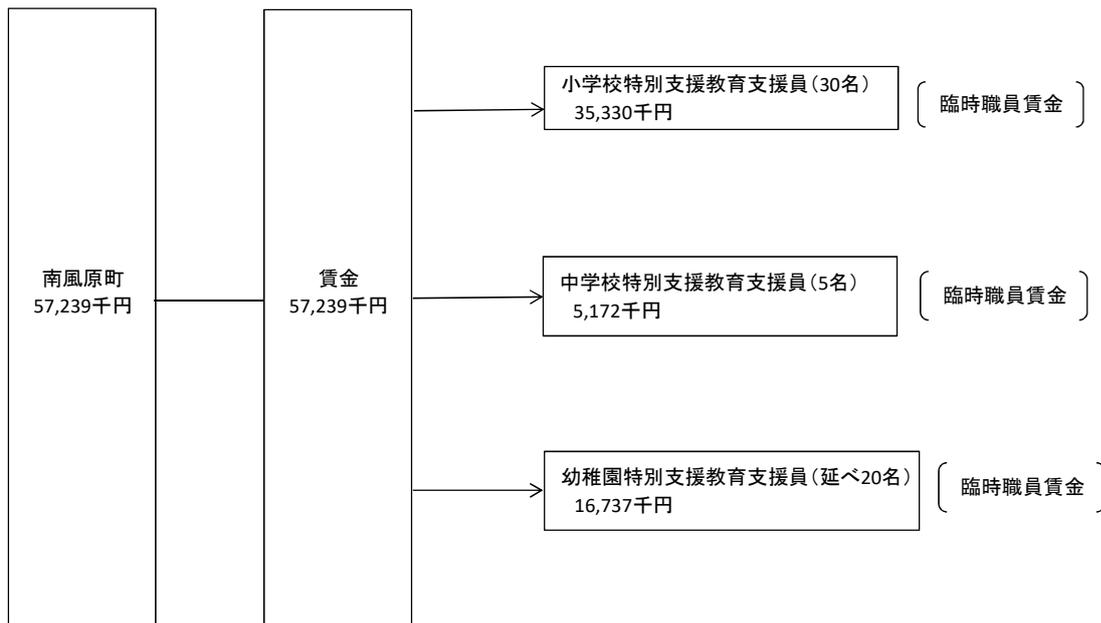
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育支援員によって対応方法が違っていたりすることで保護者の満足度に違いはあるが、概ね満足している状況であった。特に児童生徒への声かけなど丁寧に対応していることが満足に繋がっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 更なる支援の向上を図るため、年度当初と、夏休み期間中、年度末に特別支援教育支援員向けの研修を行い、質の向上に努める。 担任や特別支援コーディネーターと十分な連携を行うことによりより良い環境作りを行って行く。 保護者との連絡ノートなどによりきちんと児童生徒の様子を伝えている支援員もいれば、言葉かけが足りない支援員もあり、学校全体で情報共有を行い、きめ細かな対応に努めるよう図っていく。

今後の取り組み方針

- 夏休み期間中に、幼小中合同で研修を開催し、特別支援教育支援員の質の向上を図る。
- 特別支援相談員と担当職員が学校現場で情報を収集し、効率よい特別支援教育支援員の配置に努める。
- 引き続き、支援を必要とする児童生徒へ特別支援教育支援員を配置し、個々の発達にあった支援を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
57,239	57,239	45,791	11,448	0



資金の 用途の流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援教育支援員の選定は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学校の授業規模にあった配置を行っており、予算規模は適正である。(各学校に必要な配置を行っており、不用額は予算規模の5%以内であることから適正な規模であった)
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途が事業目的に即しているかについては「臨時職員等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払っており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑥ 学校ICT推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア		
	担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	教員のICT機器の習熟や授業での効果的な活用、及び学校教育の質を確保するため、ICT支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(a)当初予算額	91,477	54,074	22,713	46,825	13,307
	(b)予算現額	89,800	56,653	21,170	43,534	13,307	
	(c)増減額(b-a)	▲1,677	2,579	▲1,543	▲3,291	0	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	89,800	56,653	21,170	43,534	13,307	
	B.執行済額	89,800	56,477	20,498	43,513	13,306	
	うち交付金充当額	71,840	45,181	16,398	34,810	10,644	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.7%	96.8%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	ICT機器を十分に活用できるようにICT支援員を小・中学校に配置した。平成30年度に計画していた事業内容はすべて実施したことで、執行率は100%となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟	目標	()	()	()	(教員のICT機器の習熟)	
		実績				教員のICT機器の習熟度向上	
	ICT支援員配置(2名)	目標	(3名)	(3名)	(2名)	(2名)	
		実績	3名	3名	2名	2名	
達成状況説明	ICT支援員を小・中学校に2名配置することにより、教員のICT機器の習熟度を向上することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	①教員にアンケートを実施し、ICT支援員の配置により、ICT機器の習熟度が上がった(授業でICT機器を活用して指導できる)と答えた割合:80%以上	目標	()		(80%)	(80%以上)	()
		実績			89.9%	95.9%	
	②児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	目標	()	()	(80%)	(80%以上)	()
		実績			64.5%	78.4%	
	進捗状況説明	成果目標①においては、3月に教員にアンケートを実施した。その結果、95.9%が習熟度が上がったと答え、目標を達成することができた。また、ICT支援員を配置することで、積極的に電子黒板や書画カメラなどのICT機器を活用する支援環境が整えられたため、わかりやすく魅力ある授業に取り組むことができ、教育の質の向上に繋げることができた。 成果目標②においては、2月に生徒をランダムで抽出を行いアンケートを実施した。その結果、目標達成には至らなかったが78.4%が分かりやすかったと答え、目標に近い結果となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟) ICT支援員のスキルを通じて、教員のICT機器の習熟度が向上したことにより、目標達成へとつながった。その結果、児童・生徒への分かりやすい授業へとつなげることができた。	(ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟) 引き続き成果目標を80%以上とし、教員のICT機器の習熟度を上げていく。また、これまでに活用したICT機器において、教員自らのアイデアで活用方法を見いだしていけるよう、ICT支援員によるアドバイスなども行っていく。
	(ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた児童の割合) アンケート調査では78.4%と、わずかながら目標の80%以上には届かなかった。しかしながら、昨年度と比較してみると13.9%アップしていることから、ICT機器を活用した授業に対する理解度が上がっていることがわかる。また、教員のICT機器の習熟度が向上したことで、児童・生徒の理解度も上がったと考えられる。	(ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた児童の割合) 今後も電子黒板をはじめ、インターネットや動画の活用などICT機器の特性を活かした分かりやすい授業を行っていく。

今後の取り組み方針	
(ICT支援員を配置することによる教員のICT機器の習熟) 教育委員会、ICT支援員、学校との連携を行い、教員に対し分かりやすく丁寧な支援を行っていくことはもちろんのこと、タブレット機能の動画を活用する方法や電子黒板の更なる活用の模索なども含め、引き続きICT機器に対する習熟度の向上を図っていく。	
(ICT機器を活用した授業が分かりやすかったと答えた児童の割合) 児童生徒に分かりやすい授業を行うため、教員のICT機器の習熟度向上はもちろんのこと、動画や音声の活用などICT機器の特性を活かした授業を行っていく。また、ICT支援員なども連携し、児童生徒が楽しく興味を持てるような魅力ある授業を行えるように取り組んでいく。	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
13,306	13,306	10,644	2,662	0



資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ICT支援員委託事業はプロポーザル方式で選定を行っており、妥当であった。 ○ICT支援員の適正配置に係る予算が積算されており、不利益もないことから予算規模は適正な規模であった。 ○費目、使途についてはICT支援員委託事業における必要経費であり、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

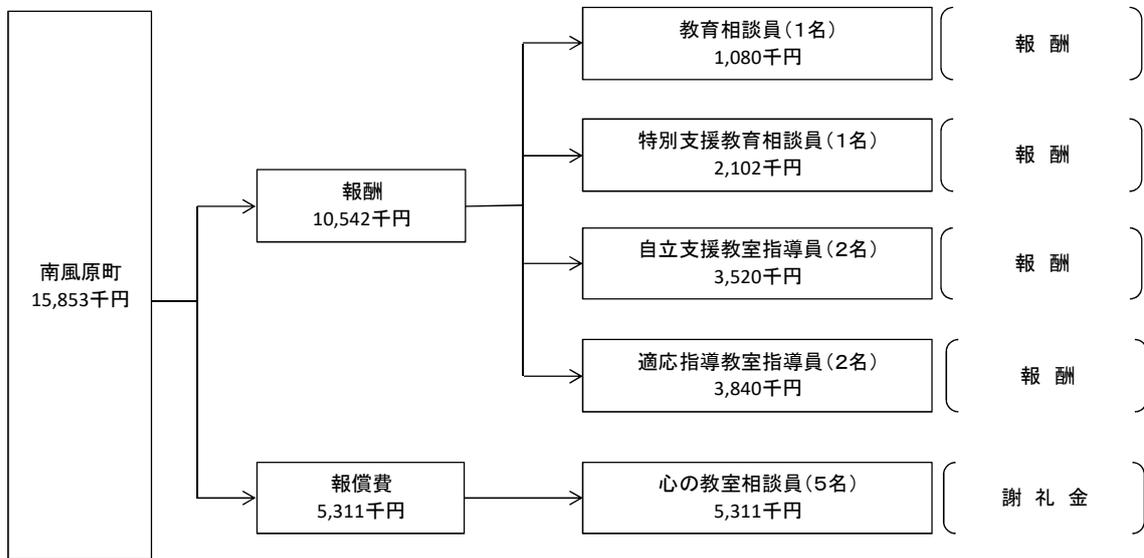
市町村名		南風原町				
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	1-⑦ 教育相談支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-イ	
	担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	家庭・地域の教育機能の充実
III-3-(1)						
事業内容	不登校児童生徒の支援のため、青少年教育相談員、特別支援教育相談員、自立支援教室支援員、適応指導教室学習支援員、心の教室相談員を配置する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(a)当初予算額	8,367	8,942	8,943	16,142
	(b)予算現額	7,283	7,708	6,793	16,139	15,854
	(c)増減額(b-a)	▲1,084	▲1,234	▲2,150	▲3	▲289
	(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)	7,283	7,708	6,793	16,139	15,854
	B.執行済額	6,894	7,449	6,768	15,333	15,853
	うち交付金充当額	5,515	5,959	5,414	12,266	12,682
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	94.7%	96.6%	99.6%	95.0%	100.0%
予算の状況の説明	予算の289千円減額は、相談業務増加による「心の教室相談員謝礼金」31千円の流用による増額及び当初4月から採用を予定していた自立支援教室指導員1名の配置が6月になったことから3月補正で320千円を減額したことによるものである。執行率については100%であり、必要な配置が全て行えた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	・青少年教育相談員 1名配置 ・特別支援教育相談員 1名配置 ・自立支援教室支援員 2名配置 ・適応指導教室学習支援員 2名配置 ・心の教室相談員 5名配置	目標 (配置)	(配置)	(配置)	(配置)	
		実績 配置	配置	配置	配置	
	目標 ()	()	()	()		
	実績					
達成状況説明	町内の小中学校に青少年教育相談員1名、特別支援教育相談員1名、自立支援教室支援員2名、適応指導教室学習支援員2名、心の教室相談員5名を配置し児童生徒・保護者・教職員への指導助言を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
		不登校児童生徒復帰率60%	()	()	()	(60%)
		実績	60%	46%	37%	
		目標 ()	()	()	()	()
	実績					
進捗状況説明	不登校児童生徒復帰率については、昨年度の46%から37%に減少し目標値60%を下回った。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度の不登校になった児童生徒の主な要因は、小学校、中学校ともに家庭に係る状況(生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等)が多くなっている。 中学校では家庭に係る状況を要因した「無気力」、「不安」が多くなっているのに対し、小学校では、本人や保護者と話しても理由がはっきりせず、集団生活への不適応、発達障害など特別支援的な要素が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標としている不登校児童生徒登校復帰率の達成に向け、引き続き教育相談員等の配置を行うとともに、学校、保護者と連携を密にとり、不登校要因の把握に取り組む。 目標値の設定にあたっては本町の過去の実績からを設定していたが、全国値(平成29年度 25.3%)も参考にした目標値の設定を検討する。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> 学校と行政が連携するとともに普段の教育相談を充実させ早期に対応することで、不登校の未然防止及び登校復帰に取り組む。 本人や保護者との教育相談を充実させることにより不登校要因の把握に努め、効果的な対策に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,853	15,853	12,682	3,171	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○教育相談員、特別支援教育相談員、心の教室相談員の選定は、採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目使途事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた時給を支払っており適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

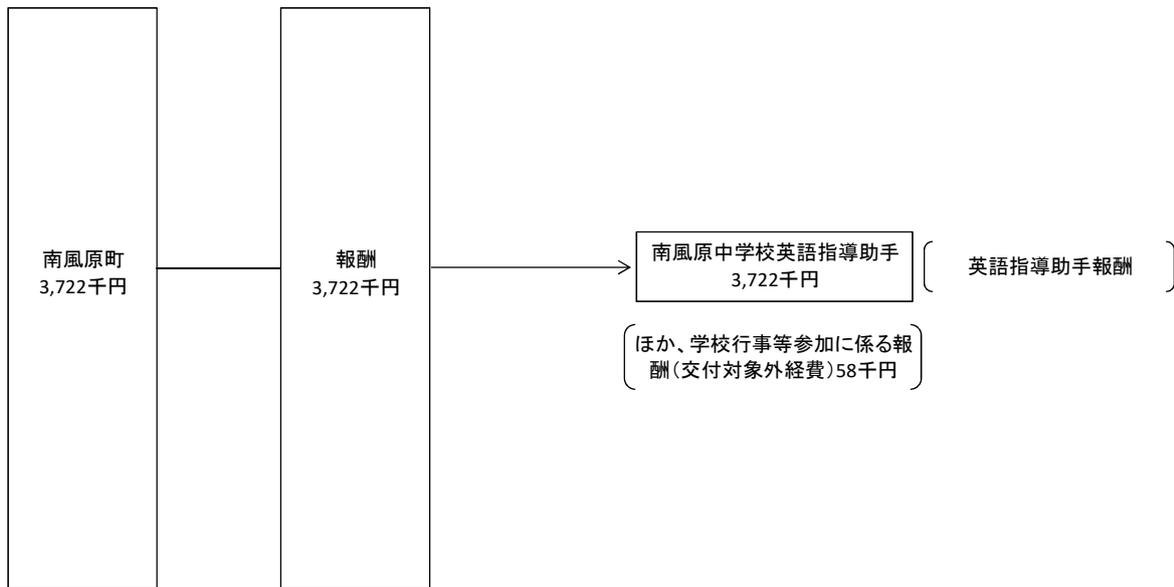
市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑧ 中学校外国人英語指導助手配置事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
	担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際社会、情報社会に対応した 教育の推進	
事業内容	中学校英語教育の充実と国際理解教育推進に資するため、外国人英語指導員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	3,780	3,780	3,780	3,780	3,780
	(b)予算現額	3,780	3,780	3,780	3,780	3,780	
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	3,780	3,780	3,780	3,780	3,780	
	B.執行済額	3,780	3,730	3,780	3,780	3,722	
	うち交付金充当額	3,024	2,984	3,024	3,024	2,977	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	98.7%	100.0%	100.0%	98.5%	
予算の状況の説明	事業計画どおり執行できた。						
活動目標(指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	外国人英語指導助手の配置 中学校 1名	目標	(1人)	(1人)	(1人)	(1人)	
		実績	1人	1人	1人	1人	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	目標通りの配置をすることで、外国人による授業を行うことができ、高度な英語教育を展開することができた。						
成果目標(指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
		標準学力調査の平均正答率について、目標値との差を縮める。 1年:-2.6ポイント以内 2年:-2.7ポイント以内	目標	()	()	()	(1年:-2.6 2年:-2.7)
		実績				(1年:-1.0 2年:-13.6)	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	標準学力調査の平均正答率にて1年生は目標値を達成(南風原町84.1%、目標85.1%)することができたが、2年生に関しては目標値から大きく乖離(南風原町41.5%、目標55.1%)する結果となった。中学校の結果についてさらに分析すると、基礎項目は正答率が43.9%だったのに対し、活用項目は正当率が35.6%であった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に外国人の先生と学校生活や授業を行うことにより、通常よりも英語を身近に感じることができ、コミュニケーション力の向上は見られるが、英語を苦手と感じる生徒が多いこともあり、英語を活用するのが苦手な傾向にある。今後も外国人英語指導助手の先生と授業の検討・改善に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話の苦手意識をなくしていくためにも、普段の生活でも英語でのあいさつや簡単な日常会話など、英語を使ったコミュニケーションを積極的に図っていくように努める。また、応用力について向上させていくために、日本人の先生方と協力しながら生徒に指導していくように務める。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・英語への苦手意識を解消していくために、日常生活からあいさつや簡単な日常会話などで英語を使って英語を使ってコミュニケーションを図っていくように努める。 ・苦手意識については、小学校からの英語環境にもよると考えられるため、小学校とも授業内容や指導方法等で連携を図りながら英語の苦手意識を解消していく。 ・応用力について、英語だけの授業ではどうしても理解が難しくなるため、日本人の先生と協力しながら授業をしていくことで、英語の応用力向上を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	交付対象外経費	
3,780	3,722	2,977	745	58



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○外国人英語指導助手は採用前に面接を行い、資格や経験等を考慮して採用しており選定方法は妥当である。 ○予算規模について不用額はなく、適正な規模であった。 ○費目使途が事業目的に即しているかについては「南風原町等の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規則」に決められた給与を支払っており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨ 南風原町各種大会派遣支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(4)-イ		
担当部課名	教育部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度		能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進	
事業内容	県外の人との競争や交流の機会を増やし、児童生徒に広い視野を持たせるため、小・中学校の児童生徒が、県外で開催される運動競技大会又は文化関係大会に参加する際の派遣費用の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	1,837	1,990	1,991	1,800	1,800
	(b)予算現額	1,837	1,990	1,639	1,400	1,127	
	(c)増減額(b-a)	0	0	▲352	▲400	▲673	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	1,837	1,990	1,639	1,400	1,127	
	B.執行済額	1,197	1,685	1,404	1,123	604	
	うち交付金充当額	957	1,348	1,123	898	483	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	65.2%	84.7%	85.7%	80.2%	53.6%	
予算の状況の説明	県外大会に参加する児童生徒に対し、派遣費の一部を補助した。 当初計画していた人数を下回ったため、3月補正にて673千円減額した。 また、執行残の523千円は、小学校の全国リコーダーコンテストが事業期間外の開催となり、504千円が交付対象外となったためである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	児童生徒の大会派遣の支援	目標	(派遣費補助)	(派遣費補助)	(派遣費補助)	(派遣費補助)	
		実績	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	派遣費補助の実施	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	九州大会4種目、全国大会2種目、延べ26人(実人数18人)の児童・生徒を運動競技大会又は文化関係大会に県代表として派遣することの支援ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	対象児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童等の保護者に対してアンケートを取り、本事業のあり方を検証する	目標	()	()	()	(80%以上)	()
		実績				100%	
【参考指標】 補助対象の児童・生徒全員への支援完了	目標	()	(31人)	(全員への支援)	(対象者への支援)	()	
	実績		63人	全員への支援(58人)	延べ26人		
進捗状況説明	本事業のあり方を検証するため、対象児童の視野が広がったかについて保護者に対してアンケートを実施した。18人からの回答を集計した結果、全保護者から視野が広がったとの回答が得られた。						

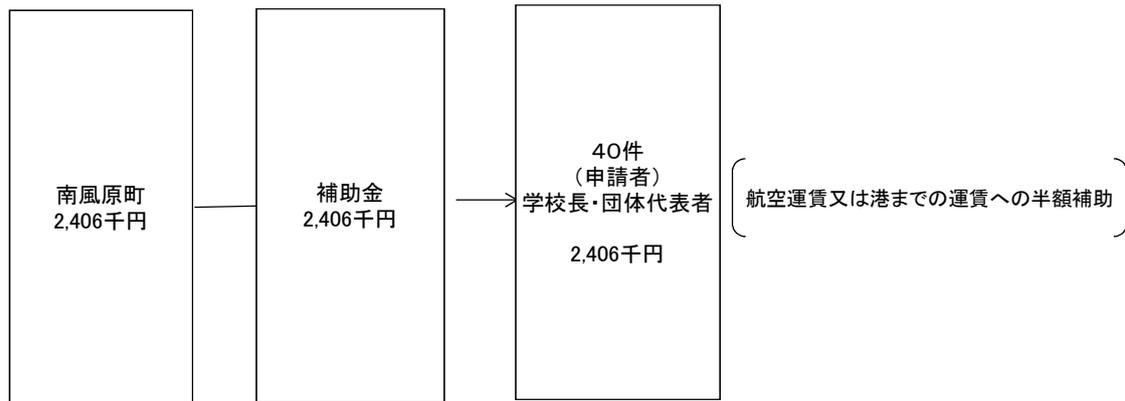
市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-10	南風原町県外等派遣支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-イ			
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	能力を引き出し、感性を磨く人づくりの推進		
事業内容	町内に在住する小学生・中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動参加のため県外等へ派遣される場合に対して必要な派遣費用の支援を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,976	2,976	2,976	2,976	2,976
			2,237	2,341	2,076	3,051	2,976
			▲ 739	▲ 635	▲ 900	75	0
			-	-	-	-	-
		2,237	2,341	2,076	3,051	2,976	
	B. 執行済額	2,004	2,299	2,002	3,021	2,406	
	うち交付金充当額	1,603	1,839	1,601	2,416	1,924	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	89.6%	98.2%	96.4%	99.0%	80.8%	
予算の状況の説明	3月の申請件数増を見込んで予算の減額をしなかったが、申請件数が予想より伸びず執行率が伸び悩んだ。しかし、概ね予算執行できており、適正な予算執行ができたと考え。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	児童・生徒及び青年会等大会派遣の支援	目標	(派遣の支援)	(派遣の支援)	(派遣の支援)	(派遣の支援)	
		実績	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	派遣費用支援の実施	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	人材育成を目的として派遣費用の支援を実施しており、軟式野球やバドミントンの運動競技の他、文化活動など多様な分野について支援することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	対象児童等の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者等に対してアンケートを取り、本事業のあり方を検証する。	目標	()	()	()	(80%以上)	()
		実績				94%	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	派遣人数は133人で、そのうち視野が広がったとの回答を126人から得ており、目標を達成することができた。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	平成29年度に派遣支援した児童・生徒が連続出場したケースと新規で派遣支援するケースもあったことから本支援事業の周知が行われていると思われる。新規で派遣支援した種目は若干増加したことから、多くの県外派遣の支援が出来たと感じる。参加した生徒からは、県大会より上位の大会に参加する事で「県外レベルを知ることで来年も出たいという目標ができた」、「今後もこのスポーツを更に頑張りたい」、などの意欲向上の声もあり、成果を感じる。ホームページを確認後の問い合わせも増えている事からホームページも効果があると感じる。	支援事業の周知については、次の2点について継続的に実施する。 ①学校・スポーツ少年団等の集会を活用し、事業内容の説明を随時実施し、申請漏れを減らす。(学校からの広報周知の応援をいただく等) ②様々な媒体を活用して支援事業の周知を図る。(ホームページ、広報等)

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・本支援事業への問い合わせ時点にて、大会等の日付の確認等を行い、早めの申請を促す。 ・学校等へ事業内容を周知するため、校長・教頭連絡会での事業の説明や広報紙での定期的な周知及びホームページへの掲載など、情報発信を継続して行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,406	2,406	1,924	482	0



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○派遣対象者については、南風原町県外派遣に関する助成金交付要綱に照らして決定しており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○支援金額については普通運賃額を超えないように比較し、適正に金額を決定している。予算の規模も適正であり、要綱に基づき必要なものに限定して交付している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者の負担も要綱に基づき実施しており、妥当であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な金額で実施している。

市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-① 南風原町幼稚園体育活動充実事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所					
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度 平成28~令和3年度					
		沖縄振興基本方針該当箇所					
事業内容	幼少期に運動する楽しさを実感し、その後の運動習慣をつけるため、幼稚園児を対象に専門的な知識を持つ講師による体育指導を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,281	1,711	1,711		
		(b)予算現額	1,046	1,711	1,711		
		(c)増減額(b-a)	▲1,235	0	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	1,046	1,711	1,711		
		B.執行済額	1,046	1,711	1,711		
		うち交付金充当額	836	1,368	1,368		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明	当初計画どおり、プロポーザルにより業者を選定し、事業を執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	町内4幼稚園での専門的な体育指導の実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	町立4幼稚園で専門講師による体育指導を行い、各園5歳児27回、4歳児9回実施することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	運動する楽しさを実感したか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	(80%以上)	()	()	()	
		実績	94.24				
		目標	()	()	()	()	
実績							
進捗状況説明	運動する楽しさについて、全園児434人中409人が体育遊びが好きと回答し(94.24%)、目標を上回る結果となった。						

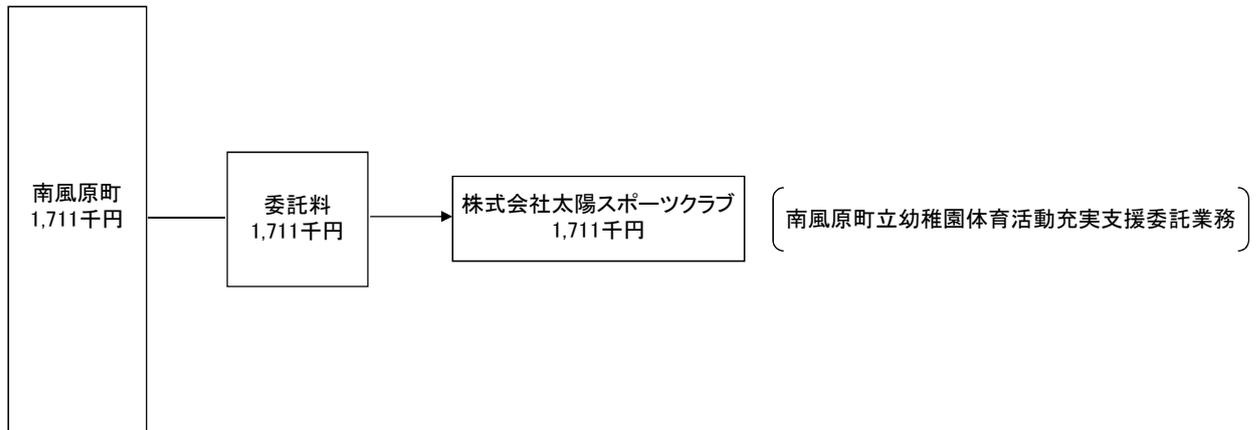
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>運動ができた達成感や楽しさを実感してもらうような指導案を事前に各園と調整し、実施の手順や各園の教諭によるサポートなどについても計画を立てることにより、園児に運動する楽しさを実感してもらえる取り組みとなった。また、各幼稚園の行事等に合わせた実施スケジュールを組むことができた。</p>	<p>目標達成のために、運動ができた達成感や楽しさを実感してもらうような指導ができるよう工夫をし、各園との調整を事前に行うなど、現状に合った取り組みとなっていることから、改善余地はないと考えられる。</p>

今後の取り組み方針

今後も目標達成のために教育委員会、各幼稚園、受託事業者との連携を図り、事業を実施していく。
また、体育指導中における事故等が起こらないように注意を払うとともに、事故が起きた際の対応や緊急連絡体制等について受託事業者とも情報の共有を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,711	1,711	1,368	343	0



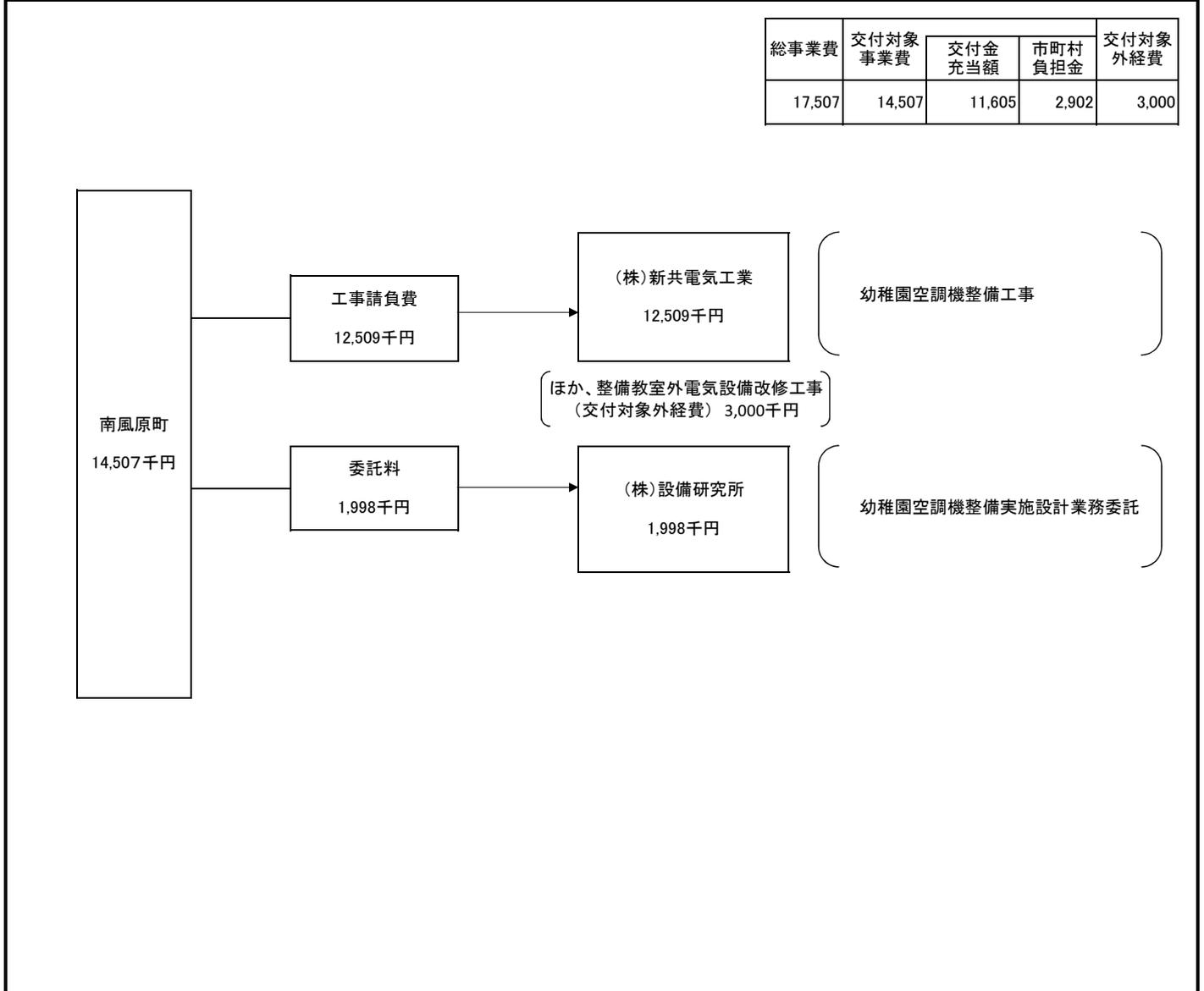
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○地方自治法施行令に基づく随意契約(プロポーザル実施)により実施しており、妥当であったと考える。 ○予算規模については不用額もなく適正であったと考える。 ○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑫	幼稚園空調機設置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ			
担当部課名	教育部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成30~令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実		
事業内容	沖縄は長期間にわたり気温が高くなるため、園児の健康維持や熱中症対策を目的に、幼稚園に冷房機を設置する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R1年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	21,394				
		(b)予算現額	17,527				
		(c)増減額(b-a)	▲3,867				
		(d)繰越額	—				
		A.計(b+d)	17,527				
	B.執行済額		14,507				
	うち交付金充当額		11,605				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		82.8%				
予算の状況の説明		実施設計及び4幼稚園(8教室)に冷房機の設置を実施した。当初予定していた監理委託は工事が小規模のため執行せず、3,867千円を減額した。当初、冷房機設置に伴う電気工事の費用を3,000千円と見込んでいたが、整備する教室以外にも電気工事が必要となり、その分を交付対象外経費とした。そのため、3,021千円の執行残が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	幼稚園冷房機設置 実施設計	目標	(実施設計)	()	()	()	
		実績	実施設計				
	幼稚園冷房機設置 工事 4園 8教室の整備	目標	(4園 8教室の整備)	()	()	()	
		実績	4園 8教室の整備				
達成状況説明	実施設計及び平成30年度に予定していた4幼稚園(8教室)に冷房機の設置を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R1年度)
	冷房機を設置した幼稚園で暑さによる体調不良となる園児数0人	目標	()	(0人)	()	()	()
		実績		後年度に検証			
	【R1成果目標】 冷房機を設置した幼稚園で暑さによる体調不良となる園児数0人		目標				(体調不良となる園児数0人)
	進捗状況説明	平成30年度に予定していた4幼稚園(8教室)に冷房機の設置を行ったが、工事が空調稼働期間中に完了しなかったため、令和元年度の空調稼働期間において成果目標の検証を行う。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業により、冷房機の設置を実施したが、工事が空調稼働期間中に完了しなかったため、整備した教室の環境改善が図られたかの検証は令和元年度に行う必要がある。</p> <p>また、設置した冷房機を長く使用するための管理や運用方法、省エネ・節電が必要となる。</p>	<p>冷房機の整備により室内環境が改善され、暑さで体調不良となる園児数0人が見込まれるが、未整備の特別教室や園庭での活動後に、冷房されている室内との急激な温度差で体温調整が未熟な園児の体に負担とならないよう、幼稚園教諭等が環境調整に努める必要がある。また、運用については、稼働時間や設定温度等の運用指針を定め、使用者に周知を行うことで継続した取り組みを行う。</p>

今後の取り組み方針
<p>特別教室は幼稚園の行事や日々の活動で利用する機会が多く、冷房機の設置により環境改善を図る必要性が高いことから、冷房機の整備を進める。</p>

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先の選定方法については指名競争入札により実施しており妥当であったと考える。</p> <p>○予算規模は、委託・工事共に積算基準等に基づき積算を行っており、事業内容に見合った適正規模であった。</p> <p>○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-① 南風原町観光景観美化整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア		
担当部課名	経済建設部 まちづくり振興課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり		
事業内容	魅力的な観光地としての景観形成を図るため、観光ルートの美化整備を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		6,442	6,442	6,442	6,780	6,780
			6,442	6,442	6,442	6,780	6,780
			0	0	0	0	0
			-	-	-	-	-
			6,442	6,442	6,442	6,780	6,780
	B. 執行済額		6,184	6,061	6,104	6,559	6,651
	うち交付金充当額		4,947	4,848	4,883	5,247	5,320
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		96.0%	94.1%	94.8%	96.7%	98.1%
予算の状況の説明		観光ルートの美化整備を4人で行うなど予算は計画通りに執行し、事業を円滑に行う事ができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	観光ルート延長L=12,600mの町道メンテナンス(美化清掃)	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	・景観美化作業員を4名雇用し、町道のメンテナンス(草木の伐採等による景観美化の管理)を恒常的に行うことで、町内の観光ルートの環境美化に努めた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
	魅力的な観光地としての景観形成を図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%以上)	()	()	()
		実績		80%			
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	・道路美化に関するアンケートを行った結果、景観形成が図られたと思う割合が80%となっており、目標を達成することができた。						

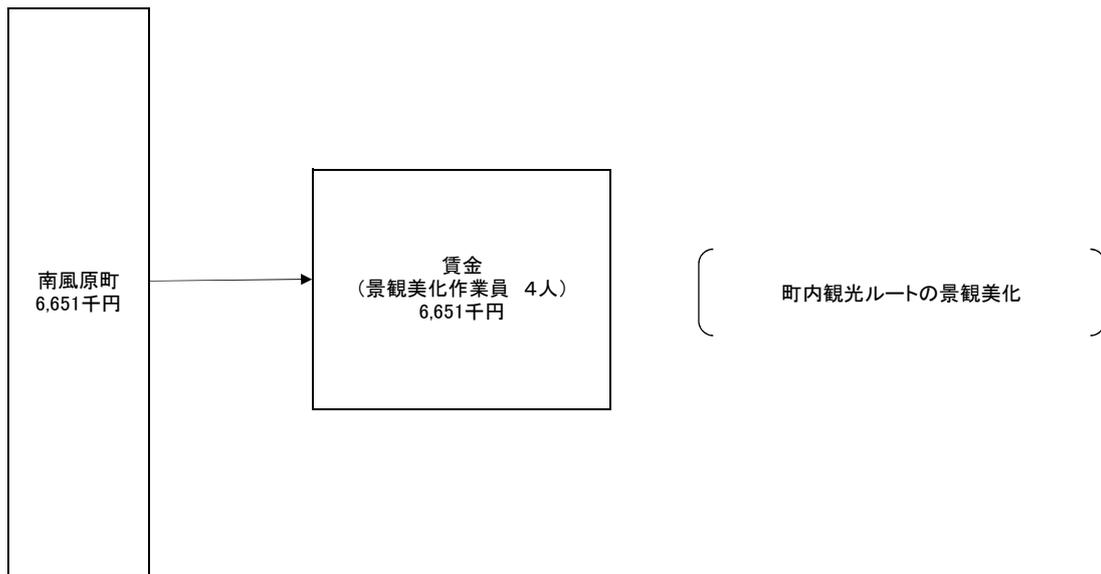
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・今後も魅力的な観光地としての景観形成を継続していくためには、観光ルート上の樹木の剪定やゴミの処理等美化整備を強化する必要があるが、美化整備する箇所も増えているため人員を増やす必要がある。	・観光ルートの景観を維持するため、関係施設周辺を点検し、年間を通して繁茂する植物を除草して環境美化の充実を図っているが、人員を増やし効率的な配置による環境美化を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・近年の観光は、観光施設にとどまらず、その地域の歴史や文化、暮らしを訪ねる事が多いことから、美化整備が必要な箇所を再確認し、年間を通して効率的に観光ルートの景観及び安心安全を向上させられるよう取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,651	6,651	5,320	1,331	0



資金の流 れの点 検・費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である景観美化作業員は、町の基準で選定雇用しており妥当だと考えている。 ○不要額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目・志途については、額の確定時において支出等に関する書類等により確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-② 危険生物駆除事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-エ		
	担当部課名	総務部 住民環境課		事業実施(予定)年度	平成27~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備
事業内容		観光客等をハブ咬傷から守るため、ハブトラップを設置するとともに、その周辺を重点地域として巡回する危険生物駆除員を配置し、安全な観光地を目指す。					Ⅲ-1-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a)当初予算額	2,523	1,749	1,833	1,833	
	(b)予算現額	2,010	1,749	1,834	1,833		
	(c)増減額(b-a)	▲513	0	1	0		
	(d)繰越額	-	-	-	-		
	A.計(b+d)	2,010	1,749	1,834	1,833		
	B.執行済額	1,679	1,622	1,699	1,647		
	うち交付金充当額	1,343	1,297	1,359	1,317		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	83.5%	92.7%	92.6%	89.9%		
予算の状況の説明	ハブ捕獲器の設置や、捕獲器用マウスの餌やり、ハブの捕獲などほぼ事業計画のとおり実行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	捕獲器を町内に50器設置	目標	(30器)	(40器)	(50器)	(50器)	
		実績	30器	37器	40器	40器	
	巡回を実施	目標	(-)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	-	実施	実施	実施	
達成状況説明	ハブの捕獲状況から40器で安全性を確保できると判断したので、10器は設置不要となった。巡回については毎週2回実施し、捕獲状況の確認や捕獲器の保守点検に努めた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
		目標	()	(0件)	(0件)	(0件)	()
	観光地内におけるハブ咬傷件数 0件	実績		0件	0件	0件	
		目標	()	()	()	()	()
	進捗状況説明	実績					
		危険生物駆除臨時職員を1名配置し捕獲器の設置と保守点検を実施し、観光地内の安全性を確保した。今年度は18匹を確保し、咬傷被害も0件で目標を達成することができた。					

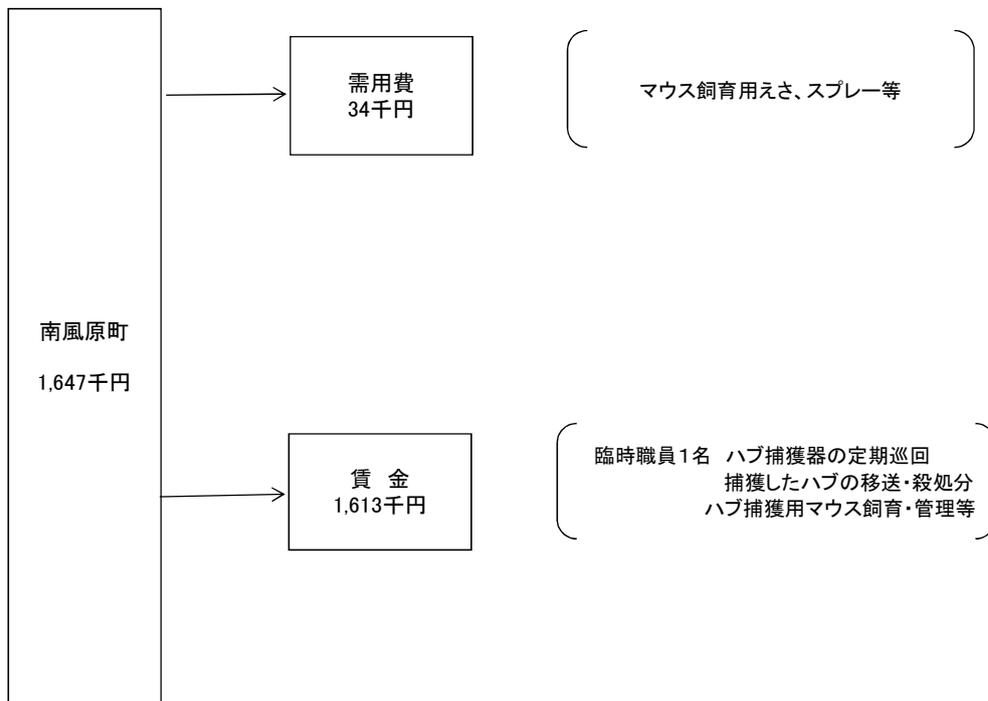
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	町内観光地を訪れる観光客の咬傷被害がないよう定期的に巡回し、注意喚起や週2回捕獲器の保守点検を実施したことが、咬傷被害0件につながったと考える。	草木繁茂や石垣の隙間などがハブにとって生息しやすい区域であるため、継続して捕獲器を設置していく。また関係機関と連携し草木伐採等環境整備に努める。

今後の取り組み方針

今後もハブ生息区域へ捕獲器を設置し、関係機関と協力した巡回強化により、草木伐採等の環境整備に努める。また、町広報誌やホームページでも注意喚起を行い、咬傷件数0件を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,647	1,647	1,317	330	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○危険生物駆除臨時職員は面接を行い、適正に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、消耗品において故障がなく一部執行しなかった予算もあるが、事業に必要な賃金、消耗品であり、適正な規模である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業目的以外の使途に支出はしていないため適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

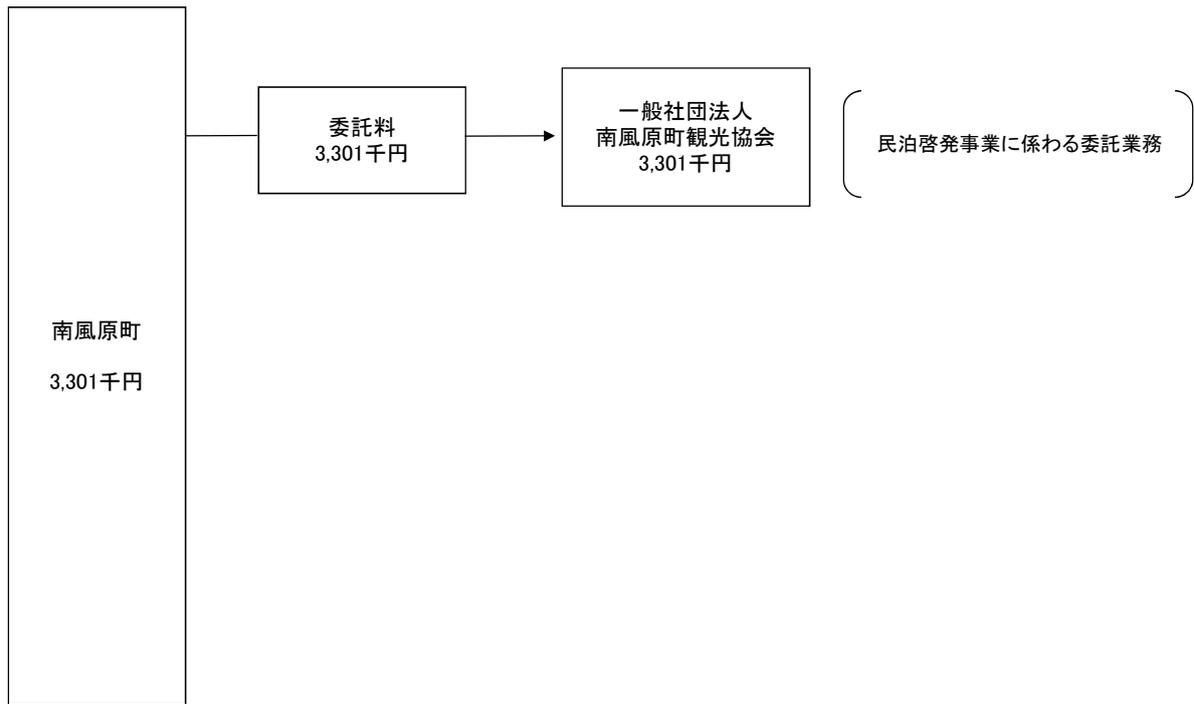
市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③ 民泊啓発推進事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ		
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施 (予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	宿泊体験の推進を図り、滞在型観光を促進するため、民泊登録家庭数の増加のためのPRや民泊登録家庭に対する研修を実施し、民泊の誘致を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		3,563	3,375	3,794	3,750	3,548
			3,563	3,375	3,794	3,750	3,548
			0	0	0	0	0
			-	-	-	-	-
			3,563	3,375	3,794	3,750	3,548
	B. 執行済額		3,389	3,149	3,480	3,504	3,301
	うち交付金充当額		2,711	2,518	2,784	2,803	2,640
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.1%	93.3%	91.7%	93.4%	93.0%
予算の状況の説明		・当初計画していた事業内容はすべて実施しており、活動目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。 ・不用額247千円については、計画段階より消耗品などの実績が下回った事によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	宿泊体験登録家庭の新規開拓	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
	修学旅行誘致活動実施	目標	(1回)	(1回)	(1回)	(実施)	
		実績	3回	1回	1回	実施	
達成状況説明	大阪での沖縄修学旅行フェアに参加し、修学旅行誘致の営業を行った。また、宿泊体験登録家庭の新規開拓に向けて講習会を実施し、情報発信を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値 (年度)
	宿泊体験登録家庭数:新規8家庭	目標	()	(8家庭)	()	()	()
		実績			4家庭		
	民泊体験者数:450人	目標	()	(450人)	()	()	()
		実績			700人		
	進捗状況説明	・宿泊体験登録家庭数については、新規8家庭の目標に対し4家庭となり目標達成はできなかったが、累計は40家庭となった。 ・民泊体験者数については、450名の目標に対し、前年度より94名増の700名で目標を達成した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(宿泊体験登録家庭数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行による教育民泊の受け入れ体制の充実強化のため、新しい受け入れ家庭では、生徒の受入に不安もあることから、研修等が必要である。 <p>(民泊体験者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の修学旅行における宿泊先は、数年前に既に決まっていることから、先を見越してPRを行っていく必要がある。また、町の平和教育の拠点である文化センターや陸軍病院での平和学習の活用を目指す。 	<p>(宿泊体験登録家庭数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習に抵抗がある民家へのサポートとして、研修会をとおして民泊家庭の質の向上と民泊家庭の増に繋げる。 <p>(民泊体験者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化センターや陸軍病院での平和学習を体験できる民泊であることをPRし、民泊体験者の増加に繋げる。

今後の取り組み方針
<p>(宿泊体験登録家庭数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民泊家庭間で食事内容や対応などに差が出ないようにするために、年間を通して講習会等を開き、質の向上と安全性の担保を図る。 ・民泊受入家庭に対して、支援と研修会や情報交換等を行うことで質の向上を図り、民泊家庭の増に繋げる。 <p>(民泊体験者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで受け入れをした学校への営業活動や修学旅行フェア等へ参加することで、民泊体験者の増加に繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,301	3,301	2,640	661	0



資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体であること、及び観光の情報発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められる、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。</p> <p>○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。</p> <p>○費目・使途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④ ヒーローのまちづくり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-エ		
	担当部課名	経済建設部 産業振興課		事業実施(予定)年度 平成24~令和3年度		観光客の受入体制の整備	
				沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-(1)	
事業内容	本町の観光振興及び地域活性化のため、南風原町が輩出した多彩な人材の功績や経歴、所有品等の観光情報発信イベントなどを定期的に行い、観光客を本町へ誘導する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,583	7,961	7,999	7,310	7,310
		(b) 予算現額	7,583	7,961	7,998	7,310	7,310
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲1	0	0
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	7,583	7,961	7,998	7,310	7,310
	B. 執行済額		7,484	6,523	7,232	6,867	7,213
	うち交付金充当額		5,987	5,218	5,786	5,493	5,770
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.7%	81.9%	90.4%	93.9%	98.7%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施しており、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。不用額97千円については、計画段階より会議費、消耗品費などの実績が下回った事によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	イベント開催:1回	目標	(1回)	(1回)	(1回)	(1回)	
		実績	2回	3回	3回	4回	
	脚本賞舞台化:1回	目標	()	()	(1回)	(1回)	
実績				1回	1回		
達成状況説明	金城哲夫生誕地事業として、金城哲夫展のほか舞台金城哲夫伝の学校公演、飛び安里凧上げ大会を開催した。また、平成31年2月に町立中央公民館黄金ホールで、これまでの脚本賞受賞作品の舞台化を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	イベント(上映会、凧上げ、金城哲夫展等)来客者数:3,400人	目標	(1,000人)	(1,000人)	(1,000人)	(3,400人)	()
		実績		2,890人	1,902人	3,500人	
	脚本賞の舞台化に係る舞台来客者:500人	目標	()	()	(500人)	(500人)	()
		実績			900人	900人	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> イベント(上映会、凧上げ、金城哲夫展等)来客者数について、ウルトラマン上映会に600人、凧上げ大会に400人、金城哲夫展に2,000人、金城哲夫伝学校公演に500人の参加があり目標数を達成した。 脚本賞の舞台化に係る舞台来客者について、900人の来場があり、目標値を大幅に達成した。 						

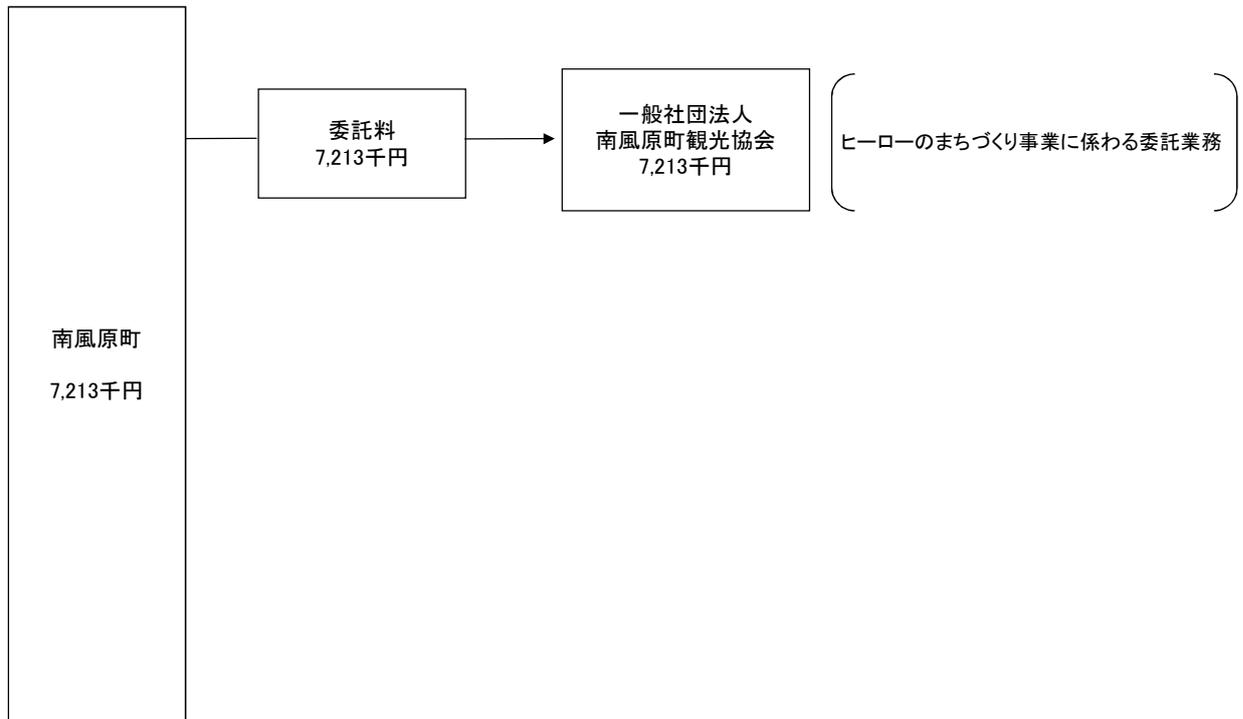
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(イベント(上映会、凧上げ、金城哲夫展等)来客者数) ・金城哲夫生誕地事業として「金城哲夫伝学校公演」を開催したことで多くの来客に繋がったと思われる。また、海の日に上映会を開催、多くの子どもたちが金城哲夫とウルトラマンの関係を知る機会となった。 (脚本賞の舞台化に係る舞台来客数) ・町民等による劇団を立ち上げ公演を行う事により、多くの方に来てもらう事ができたと思われる。	(イベント(上映会、凧上げ、金城哲夫展等)来客者数) ・住民と連携し、新たなイベントを計画して来場者の増に繋げる。 ・金城哲夫氏の功績を映像にまとめたアーカイブスの上映を行い来場者増につなげる。 (脚本賞の舞台化に係る舞台来客数) ・これまで実施してきた脚本賞の受賞作品を活かすため、舞台化に向けた取組みを継続して行う。

今後の取り組み方針

(イベント(上映会、凧上げ、金城哲夫展等)来客者数)
 ・映画の上映会や金城哲夫展、脚本の舞台化だけでなく、新たなイベントの開催に向けて地域住民が中心となった実行委員会で取り組む。
 ・金城哲夫アーカイブスを活用し多くの方々に来町してもらうとともに、本町をヒーローのまちとして認知してもらう取り組みを強化する。
 (脚本賞の舞台化に係る舞台来客数)
 ・これまでの脚本賞の作品を令和2年2月上演に向けて舞台化し、ヒーローのまちづくりの取り組みを強化する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
7,213	7,213	5,770	1,443	0



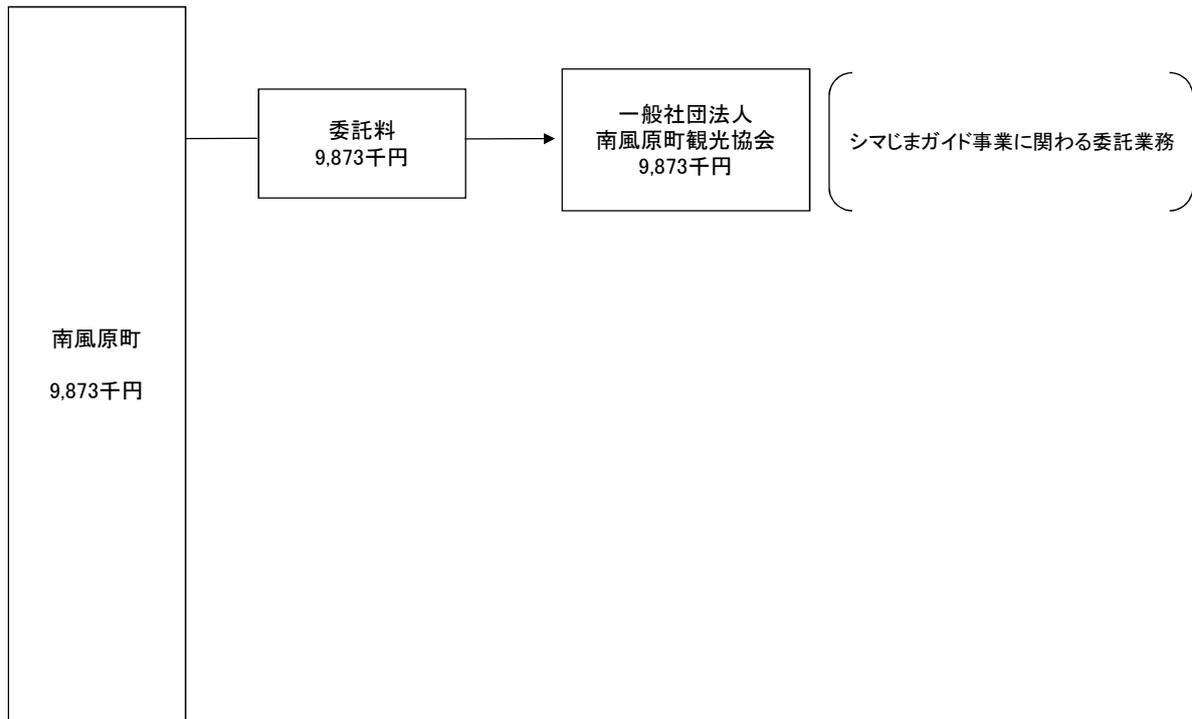
資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体であること、及び観光の情報発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町				
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	2-⑤ シマじまガイド事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
	担当部課名	経済建設部 産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所
事業内容		訪問客に南風原町の魅力を知っていただくため、着地型観光メニューとして「シマじまガイド」(名所案内巡り)を実施し、町内外からの観光客等を受け入れるシステムを構築をし、観光振興を図る。				
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)				
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(a)当初予算額	5,308	6,874	9,071	8,321
	(b)予算現額	5,308	6,874	9,071	7,436	10,448
	(c)増減額(b-a)	0	0	0	▲885	0
	(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)	5,308	6,874	9,071	7,436	10,448
	B.執行済額	4,933	6,124	7,347	7,179	9,873
	うち交付金充当額	3,946	4,899	5,878	5,743	7,898
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	92.9%	89.1%	81.0%	96.5%	94.5%
予算の状況の説明	・当初計画していた事業内容はすべて実施した。 ・平成30年3月で主任職員が退職し、平成30年4月から新採用職員に変わったことで、人件費等に不用額575千円が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	ガイド養成新規:2名	目標	(10名)	(2名)	(2名)	(2名)
		実績	7名	13名	8名	0名
	シマじまガイド開催:12回	目標	(-)	(12回)	(12回)	(12回)
		実績	-	12回	12回	17回
達成状況説明	・地域ガイド研修を5回開催しガイドのスキルアップを図った。しかし新規のガイド養成はできなかった。 ・シマじまガイドを17回開催した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
		シマじまガイド事業参加者:1,460人	目標	(1,460人)	(1,460人)	(1,460人)
		実績	508人	945人	1,672人	
		目標	()	()	()	()
		実績				
	進捗状況説明	・シマじまガイド事業について、ツアー参加者469人、イベント参加者1,203人の合計1,672人で目標を達成することができた。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・リピーターが着実に増えていると考えられる。また、今後もリピーターを増やすためにはガイドの質の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな地域ガイドメニューの創設及びガイドの質の向上に取り組むことで参加者の増につなげる。 ・他事業とも連携し、旅行社をはじめ町内各種団体、これまでのツアー参加者や団体などへSNS、電話等で告知活動に力をいれます。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな地域ガイドメニューの開発と既存メニューの充実強化に向けて、観光協会及び地域関係者が連携して取り組む。 ・ガイドを対象にした研修を行い町の歴史や文化に対する理解・関心を深めることで、案内コースの説明内容の充実化を図る。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,873	9,873	7,898	1,975	0



資金の流れ、費目、 点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○来訪者への観光案内や誘客を目的として設立された団体であること、及び観光の情報発信は何よりも新鮮な情報の提供が求められ、観光客のニーズを集約できる唯一の団体であることから、観光協会へ随意契約を行っている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容に基づく事業執行を行い、また支出先の選定は、上記説明のとおり妥当であると判断していることから予算規模は適正であると判断する。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥ 黄金森公園スポーツ施設活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-イ		
担当部課名	教育部 教育総務課		事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	「スポーツアイランド沖縄」の形成
事業内容	亜熱帯の気候・風土という沖縄の特性を生かしてスポーツチームの合宿を誘致することはスポーツアイランド沖縄へと結びつくことから、陸上やサッカー等の合宿受入れができるよう黄金森公園スポーツ施設の整備を行う。					Ⅲ-1-(1)	
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(a) 当初予算額	22,669	18,480	41,306	39,170	29,617
	(b) 予算現額	47,549	53,192	48,392	27,284	26,850	
	(c) 増減額(b-a)	24,880	34,712	7,086	▲ 11,886	▲ 2,767	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	47,549	53,192	48,392	27,284	26,850	
	B. 執行済額	44,740	51,967	44,823	26,291	26,270	
	うち交付金充当額	35,792	41,573	35,858	21,032	21,015	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	94.1%	97.7%	92.6%	96.4%	97.8%	
予算の状況の説明	・不用額580千円が生じているが、入札等執行残や嘱託職員の退職に伴う報酬の残額によるものである。 ・予算2,767千円の減額は実績に伴う補正減である。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	・芝生作業嘱託員:1名	目標	(1名)	(1名)	(1名)	(1名)	
		実績	1名	1名	1名	1名	
	花植プランターメッセージシール印刷	目標	()	()	(実施)	(実施)	
		実績			実施	実施	
	Jリーグキャンプリーフレット印刷	目標	()	()	(実施)	(実施)	
		実績			実施	実施	
	陸上競技場及び野球場芝生の管理委託	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	トレーニング室へのトレーナー配置	目標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績		実施	実施	実施	
	Jリーグキャンプ中の花植プランター設置	目標	()	()	()	(実施)	
実績					実施		
Jリーグキャンプ中の警備	目標	()	()	(実施)	(実施)		
	実績			実施	実施		
Jリーグキャンプの会場設営等	目標	()	()	()	(実施)		
	実績				実施		
Jリーグキャンプの歓迎旗作成	目標	()	()	(実施)	(実施)		
	実績			実施	実施		
Jリーグキャンプ中の廃棄物収集運搬処理	目標	()	()	()	(実施)		
	実績				未実施		

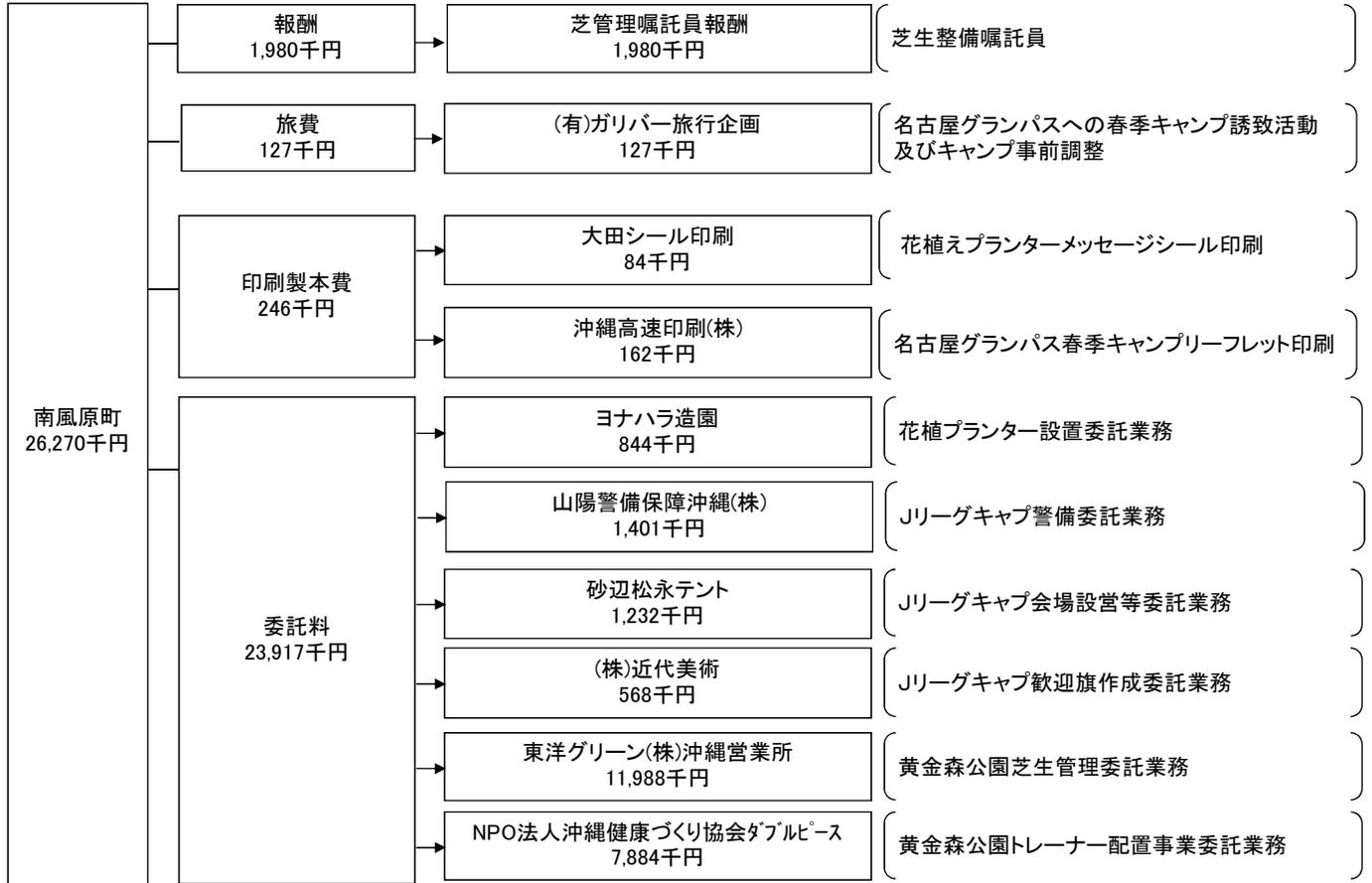
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・Jリーグキャンプ受入体制整備、陸上競技場及び野球場の芝生整備、トレーニング室へのトレーナー配置等を実施し、スポーツ施設を整備・強化することで、サッカーJリーグチームの春季キャンプ及び県外大学等の陸上競技合宿を誘致した。 ・Jリーグキャンプ中の廃棄物収集運搬処理については、会場内にてエコ活動のため、ゴミは自身で持ち帰るようアナウンスを繰り返し実施したことにより、ゴミが残らなかったことから費用は発生しなかった。 						
	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値 (年度)
成果目標 (指標) 及び進捗状況	陸上、サッカー等合宿利用者数	目標	()	(700人)	(700人)	(1,800人)	()
		実績		1,583人	1,434人	1,213人	
	Jリーグキャンプ見学者数	目標	()	(10,000人)	(10,000人)	(8,600人)	()
		実績		約7,500人	約9,800人	約5,900人	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・合宿利用者数については、スポーツ施設を整備・強化することで、サッカーJリーグチームの春季キャンプ82人、県外大学等の陸上競技合宿で1,131人が利用したが、目標は達成できなかった。 ・キャンプ見学者数についても、5,900人と目標値に届かなかった。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(陸上、サッカー等合宿利用者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・17チームの合宿利用があったが、目標値は下回った。合宿前の事前調整の段階で他団体と日にちが重なることで断られたりするケースもあったことから、細かい事前調整を行うことが必要になると考えられる。 <p>(Jリーグキャンプ見学者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ見学者については、トレーニングマッチ実施日に多くの見学者があった。試合数は昨年と同じだったが見学者数が昨年度を下回った。 	<p>(陸上、サッカー等合宿利用者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外合宿団体については、他団体との日にちの重複や施設の維持管理状況を確認しながら誘致活動を行う必要がある。特に利用人数について細かく把握することにより、他団体と共同での利用など調整を行うことが利用者の増につながる。 <p>(Jリーグキャンプ見学者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレーニングマッチについては直前にならないと開催情報が確定しないことから、情報発信の期間が短く、十分な広報活動を行うことが難しいため、効果的な発信方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
<p>(陸上、サッカー等合宿利用者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の合宿利用希望者が効率的に合宿スケジュールが組めるよう希望者とのスケジュール調整を行っていくと同時に、施設についての有効な情報発信を行っていく。 <p>(Jリーグキャンプ見学者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに効果的な情報発信ができるよう、SNSの活用など、様々な媒体を利用し情報発信を行っていく。 		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
26,270	26,270	21,015	5,255	0



資金の用途の流れ、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令に基づく指名競争入札及び随意契約(プロポーザル等)により実施しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については不用額が5%以内であり適正であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されており、適正であったと考える。

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑦ 南風原町地域ブランド構築・展開プロジェクト			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-ア		
	担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	ものづくり産業の戦略的展開		
事業内容	本町の魅力の発信及び認証した商品の販売数増加を図るため、町内事業者を対象に商品開発に関するワークショップの開催や「はえばる良品」認定、及び特産品の販路開拓等を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		7,718	19,793	21,953	18,780	15,000
			7,718	15,119	21,617	18,780	15,000
			0	▲ 4,674	▲ 336	0	0
			-	-	-	-	-
			7,718	15,119	21,617	18,780	15,000
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)		7,718	15,112	21,617	18,779	14,999
			6,174	12,089	17,293	15,023	11,999
			0	0	0	0	0
			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		販路開拓やブランド認証制度の構築・運用業務等を委託し、予定通り事業の執行を行うことができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	ブランド認証制度の構築・運用	目標	()	(構築・運用)	(構築・運用)	(構築・運用)	
		実績		構築・運用	構築・運用	構築・運用	
	販路開拓セミナーの開催	目標	()	()	(6回)	(6回)	
		実績			13回	11回	
	28年度に認証した商品のPR	目標	()	()	(実施)	(実施)	
		実績			実施	実施	
販路開拓、拡大、テスト販売	目標	()	(3回)	(5回)	(5回)		
	実績		5回	12回	5回		
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド認証制度の構築・運用については、ブランド商品認定委員会を開催し、食品分野8品を「はえばる良品」として新規認定した。 ・販路開拓セミナーの開催については、食品分野のワークショップを5回開催し、特産品開発に関しての知識習得や商品のブラッシュアップを図った。非食品分野では6回の会議を開催し、商品の魅力を伝えるためのコンセプトづくりや情報発信の手法等について協議を行った。 ・認定商品のPRについては、町広報誌や町商工会会誌、新聞やテレビなどのメディアに掲載・紹介されPRを行うことができた。 ・販路開拓、拡大、テスト販売については、県内外へ5回出展してテスト販売を行い、認定商品のPRを行った。 					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R3年度)
	はえばる良品の販売個数増(びよびよシフォン)	目標	()	(-)	(5,035)	()	()
		実績			5,196	7,200	
	はえばる良品の販売個数増(ゆめかなえぼしパウンドケーキ)	目標	()	(-)	(380)	()	()
		実績			408	320	
	はえばる良品の販売個数増(漉しカボチャ使って味わうスープの素)	目標	()	(-)	(1,000)	()	()
		実績			1,007	1,800	
	はえばる良品の販売個数増(はえばるのまきもの)	目標	()	(-)	(60)	()	()
		実績			60	82	
	はえばる良品の販売個数増(ウォッチナー)	目標	()	()	(88)	()	()
実績					100		
はえばる良品の販売個数増(SANGOくっしょん)	目標	()	()	(450)	()	()	
	実績				720		
はえばる良品の販売個数増(沖縄キビまる豚)	目標	()	()	(430)	()	()	
	実績				1,000		
進捗状況説明		はえばる良品認定商品6品目の販売目標は達成できたが、ゆめかなえぼしのパウンドケーキは目標値を下回った。その主な原因は原材料のスターフルーツが台風の影響で品薄となり、入手困難なため商品作成自体が少なくなったため。					

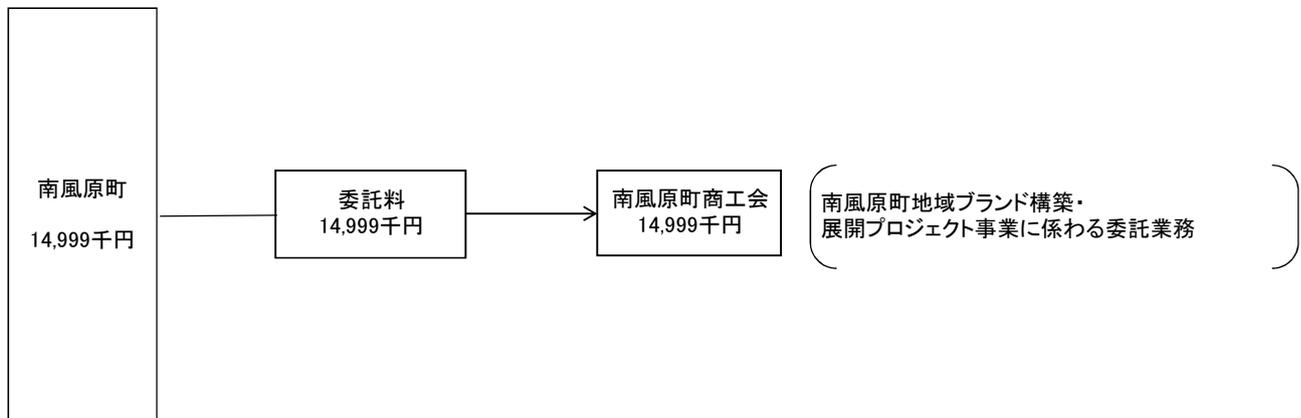
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめかなえぼしのパウンドケーキは、原材料の入手不足が原因により目標値を下回った。 ・さらなる個数増加には、認知度の向上、安定的な販路拡大が必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめかなえぼしのパウンドケーキの原材料であるスターフルーツの長期保存、安定供給への検証を行う。 ・町広報誌だけでなく、新聞・テレビ等のメディアやホームページ、SNSを利用したPRを強化するとともに、さらなる販路拡大に向けて1商品(事業者)毎にきめ細かなブラッシュアップを行う。また、消費者、購買者サイドからの意見を反映できるセミナーの開催を行う。

今後の取り組み方針

- ・認定商品のブラッシュアップとともに、新規認定となりうる商品開発に関するセミナーを行う。
- ・百貨店やスーパーのバイヤーを招聘し、購買者等の意見を反映したセミナーを行う。
- ・町広報誌や商工会広報誌だけでなく、新聞やテレビなどのメディア、県内情報誌や航空会社の機内誌などへの掲載依頼活動を行う。またホームページやSNSをさらに活用してPRに努める。
- ・招聘する予定のバイヤー等外部専門家や地元企業等から助言を受けながら販路開拓を強化する。
- ・ゆめかなえぼしのパウンドケーキにおいては、スターフルーツの安定保存及び安定供給の方法を検証する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,999	14,999	11,999	3,000	0



資金の流れ、費目・点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約により委託した南風原町商工会は、商工業の総合的な改善発達を図るための組織として設立された、町内唯一の地域経済団体であり、地域経済に精通し、町の歴史背景や地域性、地域資源を十分理解している組織であり、本業務の遂行に必要な多くの町内事業者との広範なネットワークも有していることから、妥当であると考えられる。 ○予算規模について不用額はなく、適正な規模であった。 ○費目・用途については、額の確定時において事業目的達成の観点から必要なものなのか等について書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑧ 南風原町観光PR促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-エ	
	担当部課名	経済建設部 産業振興課		事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備
事業内容		本町の認知度向上と地域資源の情報発信を図るため、はえるんや野菜のお友達を活用し、県内外の様々なイベントに出演して町特産品や観光関連のPRを実施する。					Ⅲ-1-(1)
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	7,091	9,300	9,860	7,318	3,360
	(b)予算現額	18,366	9,300	9,860	7,318	3,360	
	(c)増減額(b-a)	11,275	0	0	0	0	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	18,366	9,300	9,860	7,318	3,360	
	B. 執行済額	17,495	9,287	9,669	7,186	3,360	
	うち交付金充当額	13,996	7,429	7,735	5,748	2,688	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	95.3%	99.9%	98.1%	98.2%	100.0%	
予算の状況の説明	活動目標は下回ったものの、県内外の様々なイベントに出演して町特産品や観光関連のPRを実施するなど、当初計画していた事業内容を概ね実施できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	イメージキャラクターによる観光PR活動(1年間で100回)	目標	(100回)	(100回)	(100回)	(100回)	
		実績	124回	91回	92回	70回	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> イメージキャラクターははえるんを活用し、町内や県内の各種イベントに参加して、南風原町のPRを行った。また、はえるんの認知度を町内から広めていくため、無認可保育園や幼稚園、学童保育などの巡回を行った。 観光サイトを更新し、はえるんの出演情報や観光情報の発信を行った。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	はえるん等利用申請数:50件	目標	()	(70件)	(70件)	(50件)	()
		実績		37件	49件	36件	
	観光サイトアクセス数:207,000件	目標	()	()	()	(207,000件)	()
実績					167,415件		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> はえるん等利用申請数は平成29年度より減少し、目標は達成できなかった。 観光サイトアクセス数も目標には届かなかった。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(はえるん等利用申請件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年によって各種イベントの開催数が減ることやイベントが重なると出演ができないこと等が目標を下回った要因である。 ホームページ、広報誌等により「はえるん」の更なる周知が必要。 <p>(観光サイトアクセス数)</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント出演時のホームページ更新が減ったことによりアクセス数も昨年より減っている。 	<p>(はえるん等利用申請件数)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日の出動数を増やすことで利用申請の増が見込まれる。 引き続き「はえるん」の活動等をホームページや広報誌、イベント等で周知していく。 <p>(観光サイトアクセス数)</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント出演時のホームページ更新を出演告知と出演報告の2回行い更新頻度を増やすことでアクセス数の増加を目指す。

今後の取り組み方針

(はえるん等利用申請件数)

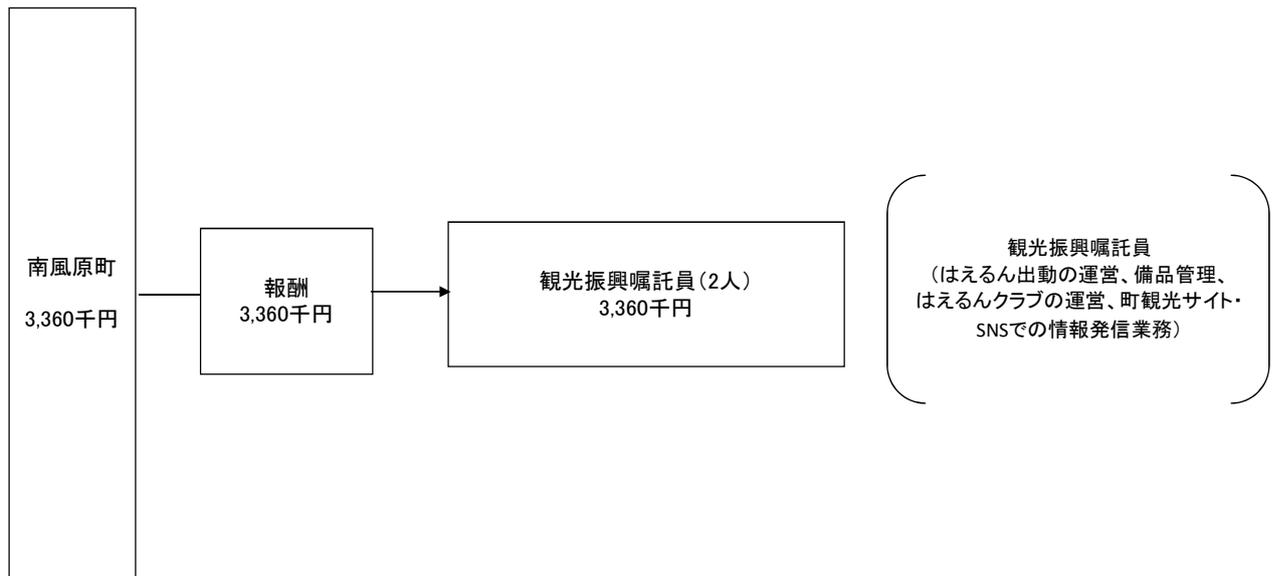
- 目標値の達成に向けて、依頼者とのスケジュール調整等を行い、効果的な観光PRを図る。
- ホームページ等の更新頻度を増やすことによりホームページ等へのアクセス数を増やし、「はえるん」の知名度を高める。
- 多くの方に「はえるん」のイラストやロゴを使用してもらい、南風原町の認知度向上やPRを図っていく。

(観光サイトアクセス数)

- イベント出演時のホームページ更新頻度を増やす。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,360	3,360	2,688	672	0



資金の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○嘱託員は面接によりしかるべき人物を採用しており、妥当である。</p> <p>○不用額はなく、適正な予算規模であった。</p> <p>○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認し、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑨ 南風原町和牛改良支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成27~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備		
事業内容	農家の経営安定化に向け、子牛の品質の向上により高値での出荷が行えるよう、系統の良い優良母牛導入経費の一部を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		3,000	3,000	2,000	2,000	
			3,000	3,000	2,000	2,000	
			0	0	0	0	
			-	-	-	-	
			3,000	3,000	2,000	2,000	
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額		2,444	2,396	1,905	1,773	
			1,954	1,916	1,524	1,418	
			0	0	0	0	
		執行率(%) (B/A)	81.5%	79.9%	95.3%	88.7%	
	予算の状況の説明	不用額227千円は、子牛のセリの落札価格が当初計画より安価で購入出来たことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	優良母牛の導入支援 4頭/年	目標	(6頭導入)	(6頭導入)	(4頭導入)	(4頭導入)	
		実績	6頭導入	6頭導入	4頭導入	4頭導入	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	計画どおり4頭の優良繁殖雌牛の導入を支援することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	導入した優良母牛から生まれた子牛と導入牛以外の牛から生まれた子牛との価格差の割合(牝)108%、(去勢)140%以上	目標	()	(牝)108% (去勢)140%	()	()	()
		実績		(牝)98% (去勢)116%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	導入牛から生まれた子牛の平均価格 (A)、導入牛以外から生まれた子牛の平均価格 (B) (A)/(B)で算出を行う。 牝: (A) 643,666円/(B) 659,250円=98% 去勢: (A) 812,800円/(B) 699,210円=116% 目標とする価格差の割合は達成できなかった。 (目標値は平成29年中の実績で算出。)						

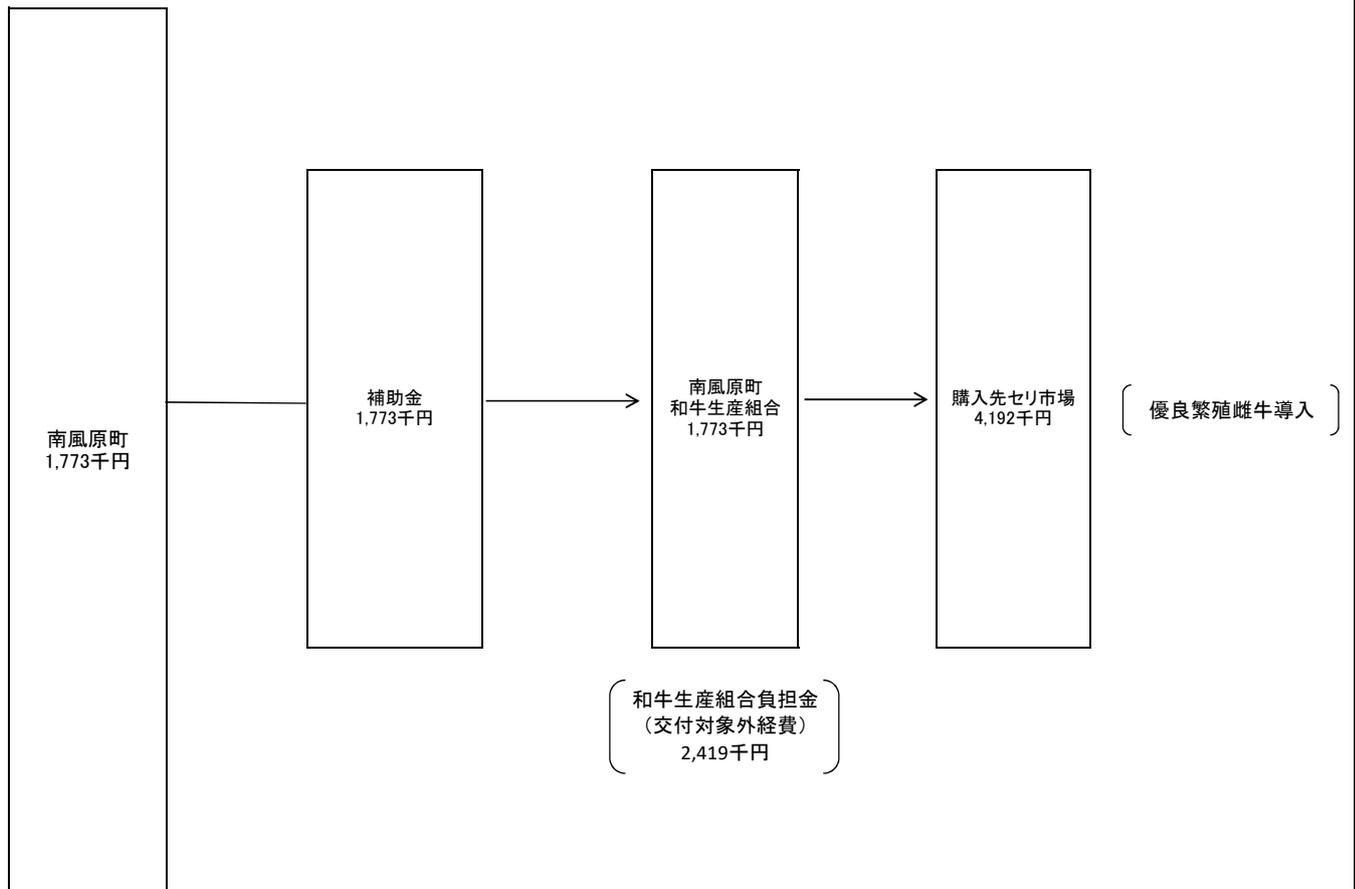
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	子牛のセリ価格向上のため、引き続き導入牛から生まれた子牛を積極的に保留し、より良い母牛へと更新を行う必要がある。	より良い子牛を生産するために、農家の育成技術や衛生管理などの飼養管理技術の向上等が必要である。

今後の取り組み方針

子牛のセリ価格については、導入牛から生まれた子牛が比較的高値で落札されており、事業の効果が発現されつつある。今後更なる改良強化を進めるためには農家の育成技術や衛生管理などの飼養管理技術の向上が必要であることから、関係機関と協力し、先進地視察や講習会の開催などを行い支援していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

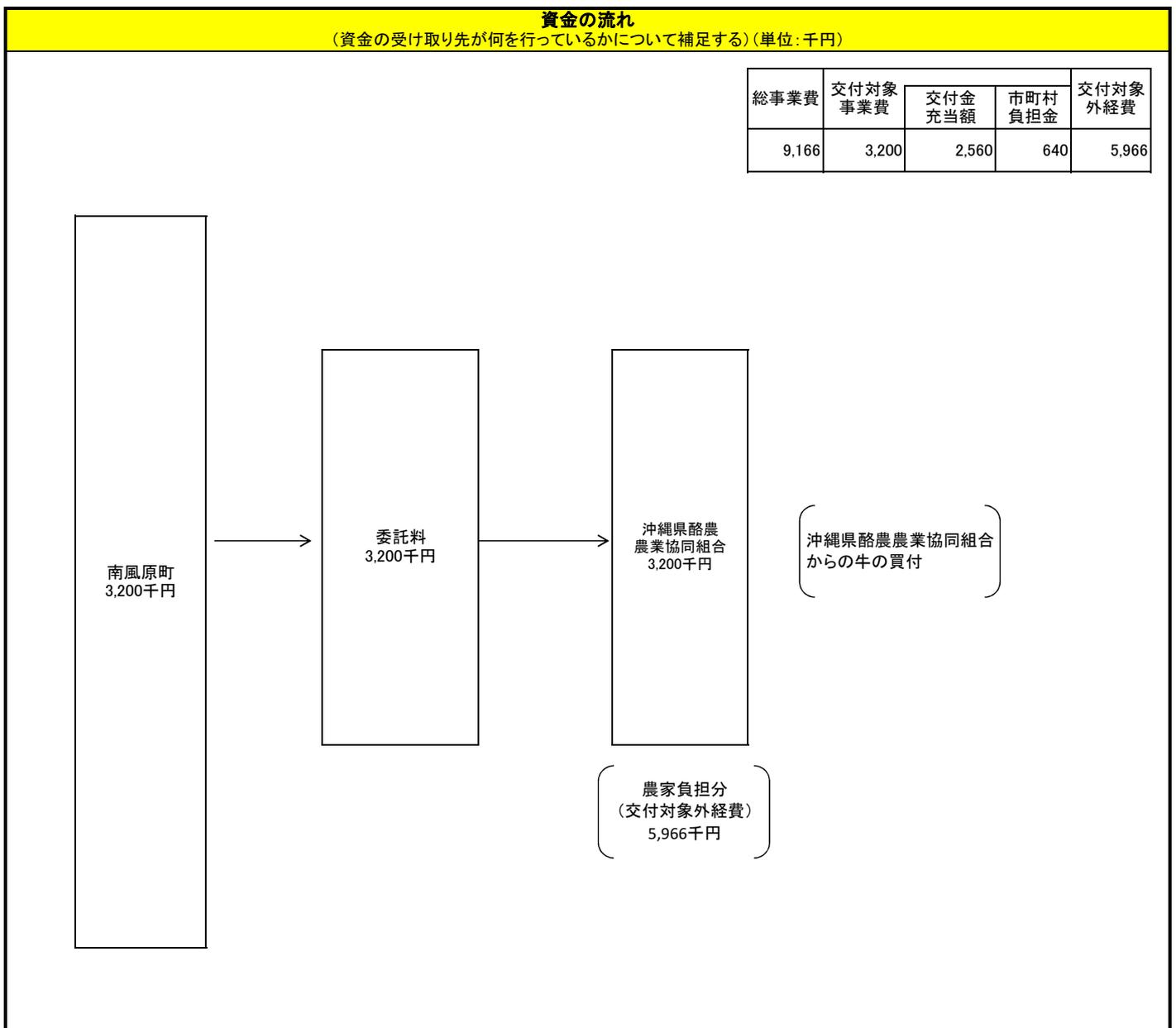
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	市町村負担金	
4,192	1,773	1,418	355	2,419



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、町内農家で構成されている組織であり、妥当だったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不要額はあったものの、セリによる落札に関するものであったため適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である農家は、総事業費の5割以上を負担しており、事業内容から判断しても妥当であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-10	南風原町乳用牛改良支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ	
担当部課名	経済建設部 産業振興課	事業実施(予定)年度	平成28~令和2年度		沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化	
事業内容	本事業により乳用牛の更新・増加を促進し、生産乳量の増加と乳質の向上を図るため、優良乳用牛の導入を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
		(a)当初予算額	4,000	3,200	3,200		
		(b)予算現額	4,000	3,200	3,200		
		(c)増減額(b-a)	0	0	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
		A. 計(b+d)	4,000	3,200	3,200		
		B. 執行済額	3,900	3,200	3,200		
		うち交付金充当額	3,120	2,560	2,560		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率(%) (B/A)	97.5%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明	8頭の優良乳用牛を導入し、事業計画どおりに執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		優良乳用牛の貸付頭数 8頭/年	目標 (10頭)	(8頭)	(8頭)	()	
			実績 10頭	8頭	8頭		
			目標 ()	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	計画どおり8頭の優良乳用牛の導入を支援することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
		生産乳量の増加:6,000kg以上 乳質(脂肪率)の向上:0.02%以上	目標 ()	乳量:6,000kg 乳質:0.02%	()	()	()
			実績	乳量:△75,459kg 乳質:△0.06%			
			目標 ()	()	()	()	()
			実績				
		進捗状況説明	平成30年実績(乳量:2,118,876kg、乳質:3.84%)と平成29年実績(乳量:2,194,335kg、乳質:3.90%)を比較して算出。 乳量:2,118,876kg-2,194,335kg=△75,459kg 乳質:3.84%-3.90%=△0.06% (目標値は平成29年と平成28年を比較して算出)				

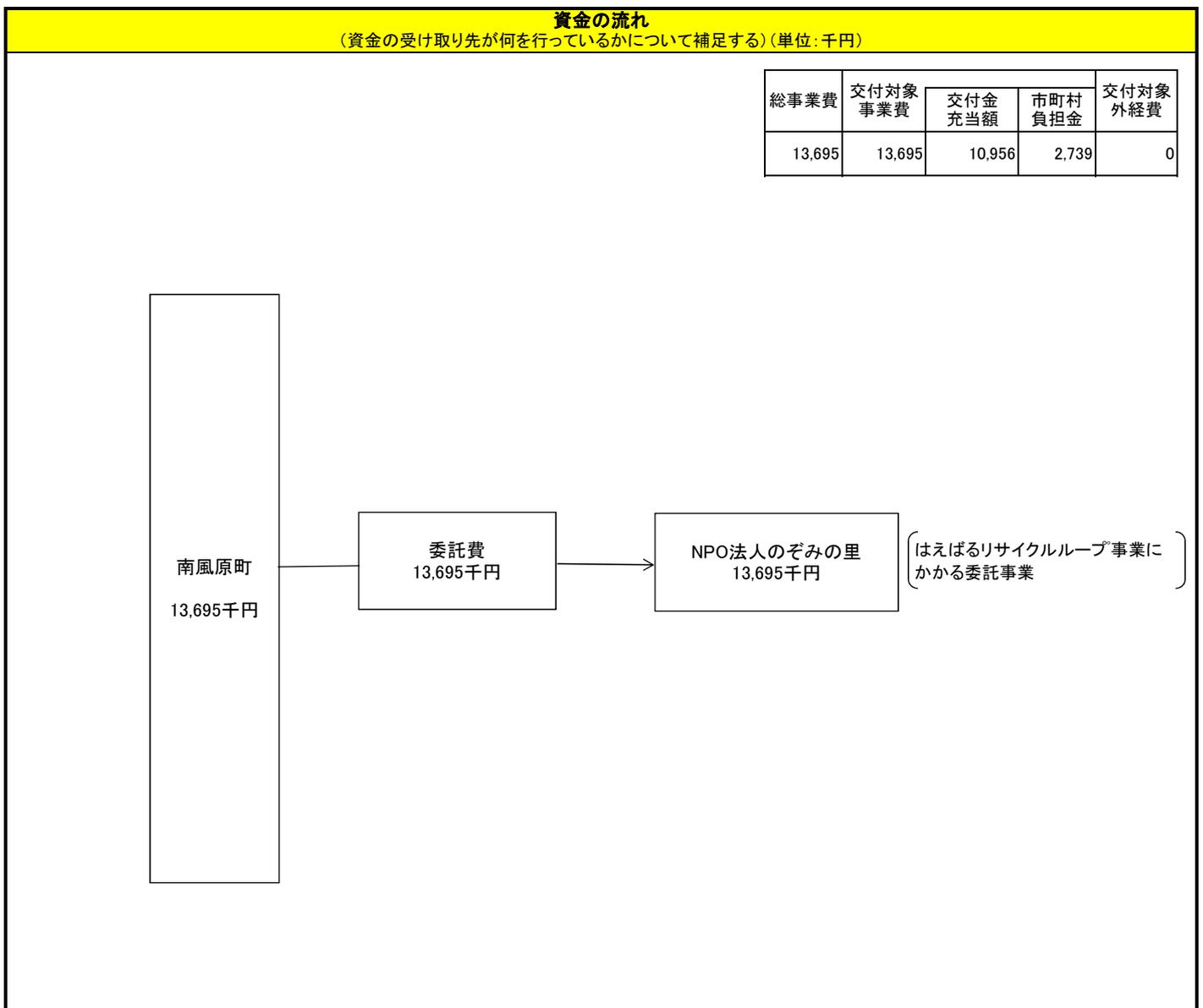
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	生産乳量の増加と乳質の向上を図るため、引き続き導入牛から生まれた子牛を積極的に保留し、より良い乳用雌牛へと更新を行う必要がある。	乳用牛は夏場の暑熱により、乳量や乳質に影響があり、また、牛の繁殖能力等にも影響がある可能性があるため、暑さ対策や衛生管理、育成技術などの飼養管理技術の向上等が必要である。
今後の取り組み方針		
沖縄県酪農農業協同組合などの関係機関と連携し、事業検証データの収集・分析を行い、生産乳量の増加と乳質の向上が図られるよう研修会等を開催し、乳用牛の改良を支援していく。		



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、町内農家の経営実態を把握し、生産技術の向上や経営指導等にも携わっているため妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である農家は、総事業費の6割以上を負担しており、事業内容から判断しても妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-① はえばりサイクルループ事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア		
担当部課名	総務部 住民環境課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進		
事業内容	町内で発生する食品廃棄物を分別回収し、それらで養豚用飼料や堆肥を生産する。また、生産された飼料で養豚を育て販売し、食品廃棄物の循環を構築する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		16,150	14,905	14,639	14,200	13,695
			16,150	14,905	14,639	14,200	13,695
			0	0	0	0	0
			-	-	-	-	-
			16,150	14,905	14,639	14,200	13,695
	B. 執行済額		14,804	14,905	14,639	14,150	13,695
	うち交付金充当額		11,843	11,924	11,711	11,320	10,956
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		91.7%	100.0%	100.0%	99.6%	100.0%
予算の状況の説明		食品廃棄物の循環構築業務を委託し、事業計画のとおり執行することができた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	町内で排出される食品廃棄物を回収、分別し、飼料や肥料を生産することで、循環構築をはかり、生ごみ(家庭系)の年間資源化の増を目指す。	目標	(75 ^ト)	(80 ^ト)	(45 ^ト)	(30 ^ト)	
		実績	30 ^ト	27 ^ト	27 ^ト	30 ^ト	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	協力世帯への排出協力を促したことで、目標の30トに達し食品廃棄物の循環構築を達成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	生ごみ(家庭系)の年間資源化量(30ト)	目標	()	(80 ^ト)	(45 ^ト)	(30 ^ト)	()
		実績		27 ^ト	27 ^ト	30 ^ト	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	協力世帯への排出協力を促したことで、目標を達成することができた。						

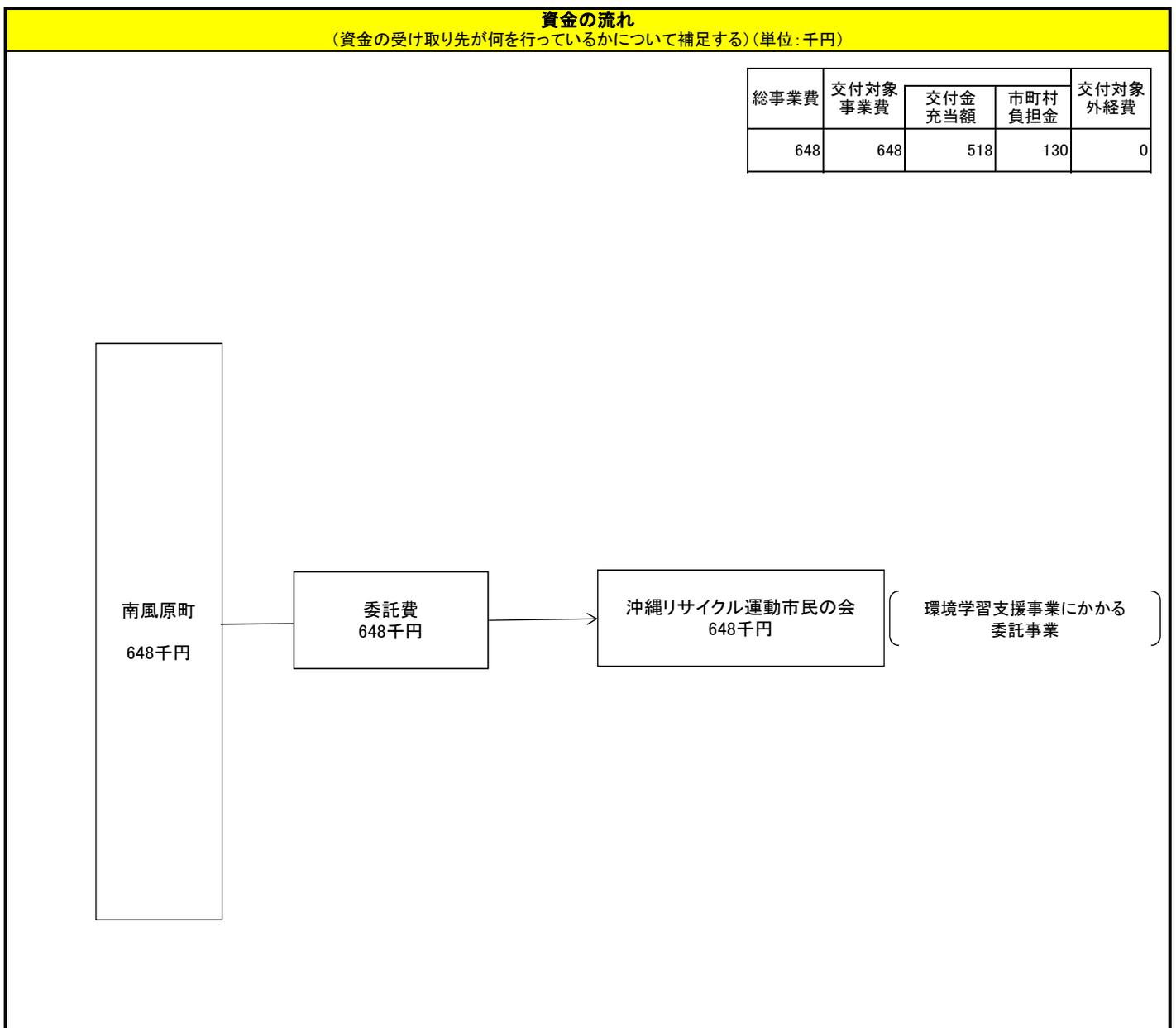
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	食品廃棄物は循環できる貴重な資源であることから、生ごみの有効活用の啓発活動を推進し、リサイクルループの理念の共有を図る。	食品リサイクルについて理解のある世帯を区長会等を通じて自治会長に紹介してもらうなど、新たな協力世帯を増やし、生ごみの資源化量の増加に努める。
今後の取り組み方針		
自治会長からの情報提供や戸別訪問等により協力世帯を増やしていけるよう取り組んでいく。		



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本事業は町内における食品廃棄物の循環構築を目的としており、町内で対応できる事業者が1事業者であるため地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約であり妥当である。 ○予算執行率は100%で不用額はなく適正であった。 ○費用・使途も事業にかかる経費で真に限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-② 環境学習支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-オ		
担当部課名	総務部 住民環境課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	県民参画と環境教育の推進		
事業内容	ごみ減量やリサイクルの重要性の意識の向上と、次代を担うこどもたちの環境倫理の醸成のため、専門家による「体験型」の環境教育・環境学習を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	810	810	864	864	864
		(b)予算現額	810	810	821	864	864
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲43	0	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	810	810	821	864	864
	B.執行済額		486	648	810	864	648
	うち交付金充当額		388	518	648	691	518
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		60.0%	80.0%	98.7%	100.0%	75.0%
予算の状況の説明		当初16回(クラス)の環境学習の計画に対して12回(クラス)の開催にとどまったため、不用額216千円が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	町内4小学校の4年生を対象に環境学習「買い物ゲーム」の実施。実施回数16回	目標	(15回)	(16回)	(16回)	(16回)	
		実績	12回	15回	16回	12回	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	町内の4小学校において、16回(クラス)「買い物ゲーム」を実施する予定であったが、1小学校において計画通り行うことができず、12回(クラス)の実施となった(参加児童合計368人)。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	環境保全に対する意識向上が図られたか(80%以上)を含め、児童に対するアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	()	()	()
		実績		100%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	体験した児童からは、「いらぬ物は買わない」「ペットボトルでなく水筒を使う」等の感想があり、学校の先生方からも「子供達が環境について考えることが増えた」等の意見を頂き、実施した学校からは大変好評で目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	環境問題の喫緊の課題はペットボトル等のプラスチックの海岸漂着物であり、国際問題になっている。買い物をする時点からごみ減量を考える習慣をつけられる授業を展開し、ごみ減量から環境問題へと興味関心を持ってもらえるよう支援が必要である。	本町を流れる国場川はペットボトルの不法投棄が多く、本島南部海岸漂着ごみの原因となっている。そのため、海に面していない本町でも海洋汚染の原因者になり得ることを強調した環境学習支援を強化する。
今後の取り組み方針		
<p>買い物で何気なくペットボトル等のプラスチック製品を購入すると廃プラスチックの増加につながることや、海外への海岸漂着廃棄物には南風原町の河川から流れた廃プラスチックも原因になりえるということを、買い物を行う段階から意識できるような学習支援を展開する。</p>		



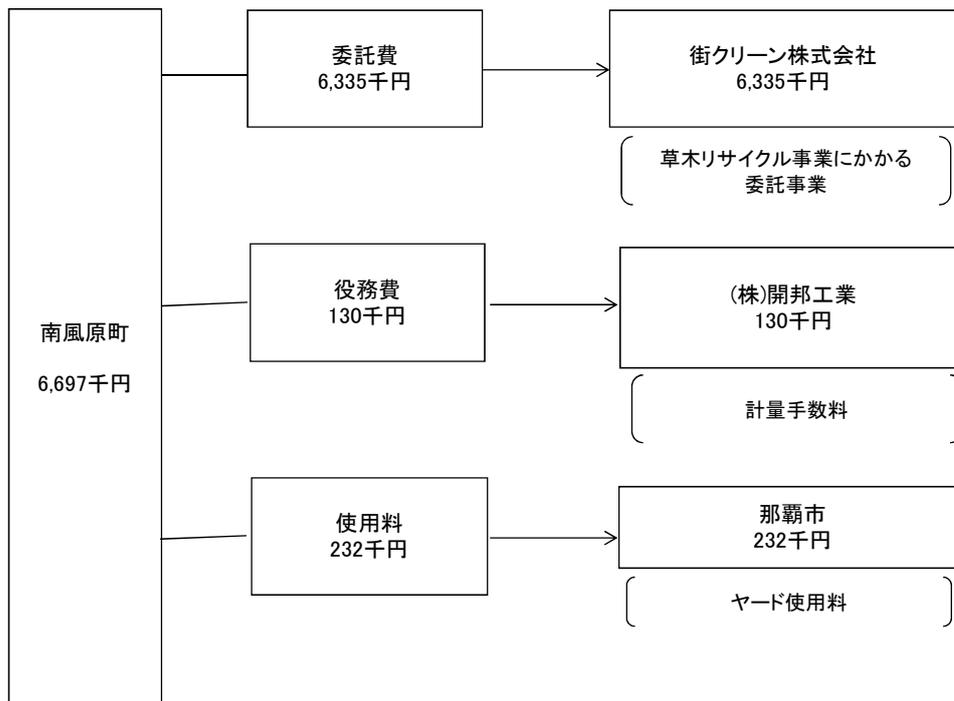
資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特定の環境教育支援ツールを使用したいことから委託先が限定されており、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、学校との調整により当初計画どおりの回数を実施できなかったため不用額が発生したが、本事業の目的達成に必要な費用に限られており、適正であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途も事業にかかる経費で真に限定的である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-③ 草木リサイクル事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア		
担当部課名	総務部 住民環境課	事業実施 (予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	3Rの推進		
事業内容	草木廃棄物を循環利用した「循環のシステム」を構築するため、町内家庭から出る草木を堆肥化し、活用する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	6,983	6,770	6,832	6,325	7,215
		(b)予算現額	8,013	7,670	6,512	6,325	7,215
		(c)増減額(b-a)	1,030	900	▲320	0	0
		(d)繰越額	—	—	—	—	—
		A.計(b+d)	8,013	7,670	6,512	6,325	7,215
	B.執行済額		7,909	7,158	6,087	5,548	6,697
	うち交付金充当額		6,327	5,726	4,869	4,438	5,357
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.7%	93.3%	93.5%	87.7%	92.8%
予算の状況の説明		ほぼ計画の通り予算の執行ができた。不用額518千円は、排出見込よりも実際の草木の排出量が少なかったためである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	町内から排出される草木を堆肥化することで、リサイクル量の増をはかる。	目標	()	()	()	()	
		実績	減	増	増		
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	町内の各家庭から排出された草木を平成29年度より44トン多い451톤を収集し、堆肥化することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値 (年度)
	草木のリサイクル量(堆肥化):455톤	目標	()	(421톤)	(436톤)	(455톤)	()
		実績		398톤	407톤	451톤	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	目標に4톤及ばなかったが、平成29年度より44トン多い451톤を収集し、堆肥化することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	草木の搬入量が徐々に増えてきていることから、収集の際に異物混入がないかチェック体制を強化する必要がある。	収集員と連携し、異物混入を未然に防いでいくとともに、違反世帯には、草木リサイクルの主旨を説明し、分別リサイクルの理解協力を推進する。
今後の取り組み方針		
良質な堆肥を生産するため、収集時に収集員が草木に異物の混入がないかチェックを十分に行うとともに、草木の持ち込み搬入についても異物混入がないよう現場調査を強化する。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,697	6,697	5,357	1,340	0



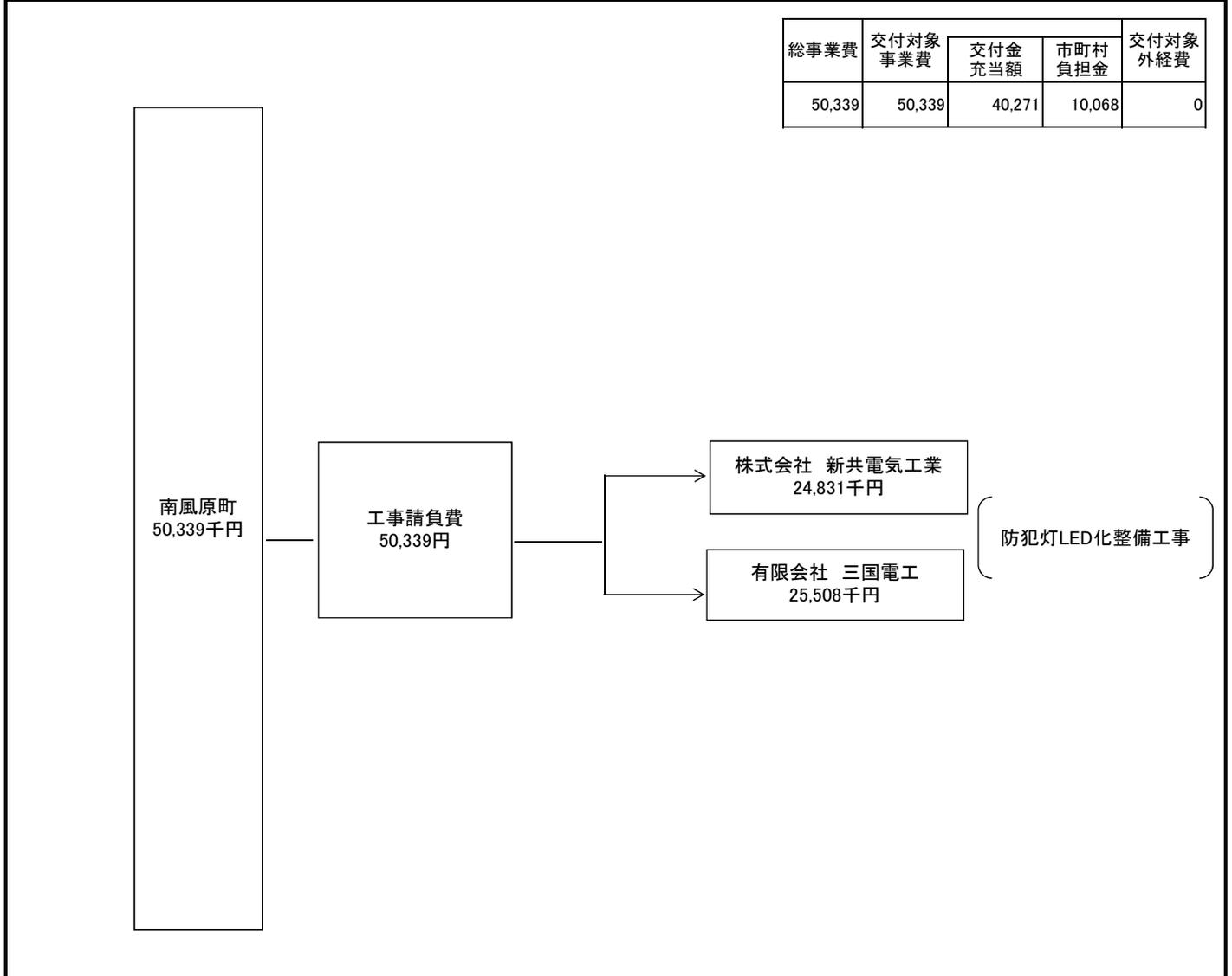
資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○南風原町近郊で家庭から排出された草木を堆肥にリサイクルできる委託先がー社しかないため、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号による随意契約である。 ○予算執行率は92.8%であったが、草木の搬入量は適正な量であったため予算規模も適正であった。 ○費用・使途も事業にかかる経費で真に限定的である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-④ 低炭素社会化事業(省エネ設備導入事業)			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア		
担当部課名	経済建設部 まちづくり振興課	事業実施(予定)年度	平成27~30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進	
事業内容	省エネルギー設備の導入により環境負荷の少ない低炭素社会の実現を図るため、防犯灯(水銀灯、蛍光灯)等を環境負荷の少ないLED照明に切り替え、温室効果ガス(CO2)の排出を抑制する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H27年度(繰越)	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	10,383	—	94,770	55,978	55,852
	(b)予算現額	10,231	—	94,664	55,978	50,339	
	(c)増減額(b-a)	▲152	—	▲106	0	▲5,513	
	(d)繰越額	—	9,811	—	—	—	
	A. 計(b+d)	10,231	9,811	94,664	55,978	50,339	
	B. 執行済額	389	9,616	94,663	55,763	50,339	
	うち交付金充当額	311	7,693	75,730	44,610	40,271	
	次年度繰越額	9,811	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	3.8%	98.0%	100.0%	99.6%	100.0%	
予算の状況の説明	LED化整備工事を2業者で16地区で実施し、予算を執行することができた。予算の減額5,513千円については、入札残や道路事業等によりLED照明へ切り替える防犯灯が減少したこと等によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	既設防犯灯(水銀灯・蛍光灯)のLED灯への切り替え(405灯)	目標	(750)	(443)	(405)	()	
		実績	735	405	403		
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	405灯のLED化を目標に、南風原町を2地区(16自治会)に分け防犯灯のLED化整備工事を実施し、403灯の防犯灯設置を行ったが、目標を2灯下回る結果となった。目標値を下回った要因は、道路事業等による減によるものである。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
			()	(35.86)	(21.18)	(20.76)	()
	温室効果ガス排出削減量 20.76[tco2/年]	実績		37.65	18.44	21.25	
		目標	()	()	()	()	()
	実績						
	目標	()	()	()	()	()	
進捗状況説明	16自治会の既存蛍光灯CO2排出量計算とLED灯切り替え後のCO2の排出量の差により求めた。温室効果ガス総排出削減量は21.25[t-CO2/年]であり、率にして59.1%のCO2を削減をすることが出来た。目標と実績の差については、LED灯への切替えが進んだことによるものである。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	既存の蛍光灯からLED化整備をするにあたり、工事が複数年にまたがることや既存の防犯灯の維持・管理と平行して行う必要があるため、設置場所や優先順位などを自治会と調整するのに時間を要した。	私有地にある既設防犯灯のLED化については、設置の同意を得るため、自治会や土地所有者との調整をスムーズに行う必要がある。

今後の取り組み方針
私有地にある既設防犯灯のLED化については、円滑にLEDへの切り替えが行えるよう、土地所有者の調査を速やかに行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



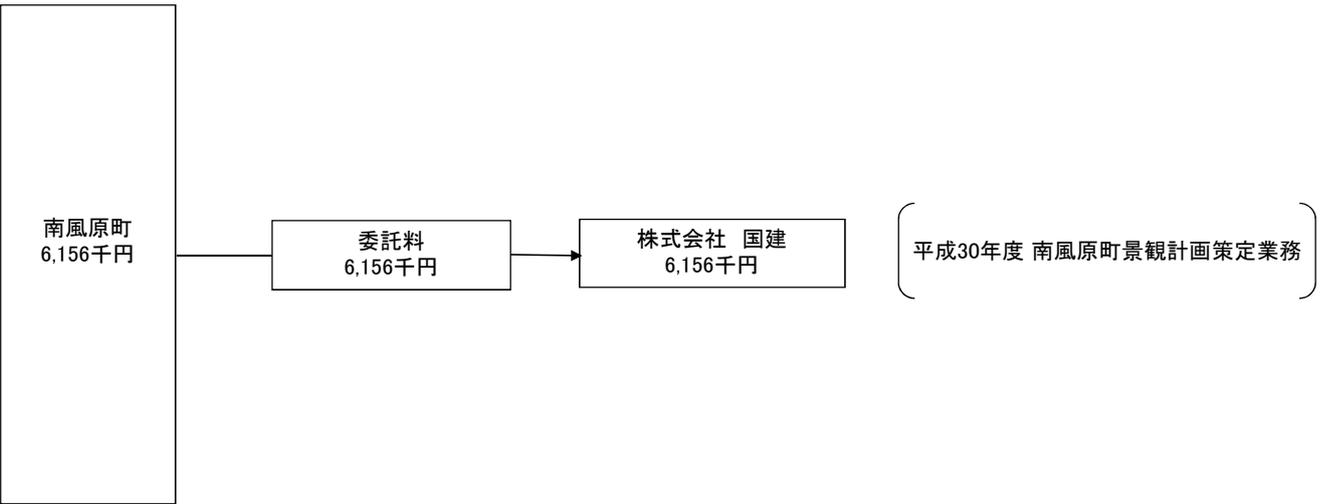
資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負業者は指名委員会による選定後、指名競争入札参加によって工事請負契約を締結しているので妥当だと考える。 ○不用額がなく適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-⑤ 南風原町景観計画策定事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア		
担当部署	経済建設部 まちづくり振興課	事業実施(予定)年度	平成28~30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり		
事業内容	観光地として魅力ある景観形成を図る為、景観計画及びガイドラインを作成する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R1年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,942	6,000	6,400		
		(b) 予算現額	3,726	5,724	6,400		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 216	▲ 276	0		
		(d) 繰越額	-	-	-		
		A. 計(b+d)	3,726	5,724	6,400		
		B. 執行済額	3,726	5,724	6,156		
		うち交付金充当額	2,980	4,579	4,924		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	96.2%		
予算の状況の説明	不用額244千円は入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	住民説明会の開催	目標	(12回)	()	()	()	
		実績	12回				
	パブリックコメントの実施	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	景観計画書の作成	目標	(計画書作成)	()	()	()	
実績		計画書作成					
達成状況説明	住民説明会を全12区・自治会で実施し、区・自治会での景観資源を景観計画へ反映させ、総合的に南風原町独自の景観計画を策定する事ができた。 景観計画書に広く町民の意見を反映させるため、パブリックコメントを実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R1年度)
	景観計画の策定完了	目標	()	(計画書策定)	()	()	()
		実績		計画書策定			
	【R1成果目標】	策定した計画について、南風原町景観審議会で大規模開発の適合チェック等(年1回以上)を行うことで、本事業を検証することとする。	目標				(1回以上)
	進捗状況説明	住民説明会やパブリックコメントを実施し、景観形成基準及び行為の制限等を定めた景観計画を策定した。今後、まちづくりにおける景観の指針として南風原町の豊かな自然景観や歴史文化資源を守り、育て、創造する事で町全体の魅力ある景観形成を図る。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	計画策定にあたって、各自治会でこれまでの経過を含め住民説明会を実施した。また、影響がある建築士会へも説明会を実施した事で、住民及び関係機関への周知を図る事ができた。	ホームページ、広報誌等を活用して住民及び関係機関へ南風原町景観計画の周知を図る。
今後の取り組み方針		
南風原町景観計画に基づき、届出対象行為を広く定める事で南風原町の豊かな自然景観や歴史文化資源を守り、育て、創造する事で観光地として魅力ある景観形成を図る。住民及び、関係景観へ幅広く周知を図り景観計画への意識向上を図る。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
6,156	6,156	4,924	1,232	0



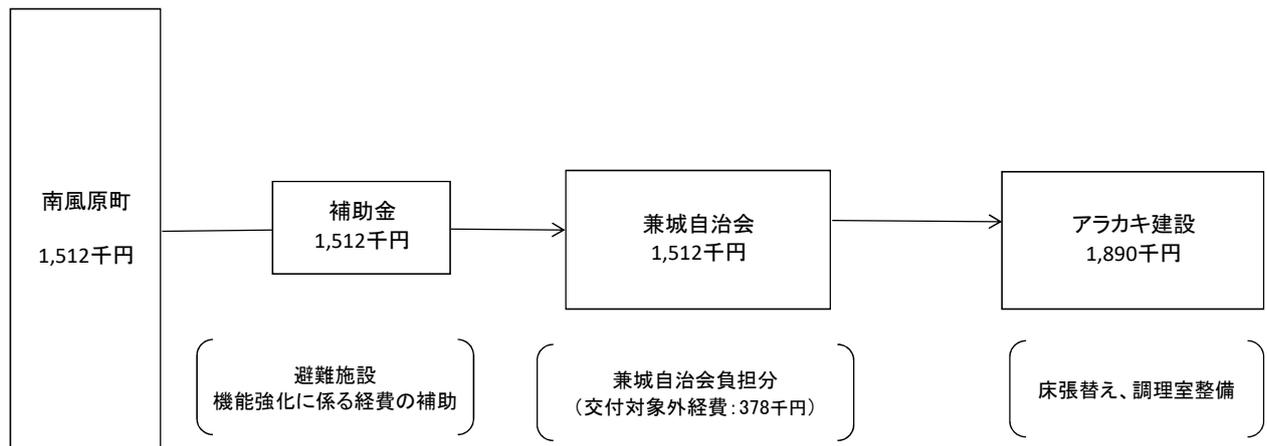
資金の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模は、仕様書に基づき必要な費用を計上しており、適正な規模であった。 ○費目・用途については、仕様書のとおり実施されているので妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-① 災害時等避難施設機能強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ		
担当部課名	総務部 総務課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化
事業内容	災害時における地域住民の安全を確保するため、バリアフリー化等、避難所の整備を支援する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R1年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	5,000	—	5,000	2,500	2,500
	(b)予算現額	3,454	—	5,000	2,500	2,500	
	(c)増減額(b-a)	▲1,546	—	0	0	0	
	(d)繰越額	—	—	—	—	—	
	A.計(b+d)	3,454	—	5,000	2,500	2,500	
	B.執行済額	3,219	—	5,000	2,500	1,512	
	うち交付金充当額	2,575	—	4,000	2,000	1,209	
	次年度繰越額	0	—	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	93.2%	—	100.0%	100.0%	60.5%	
予算の状況の説明	計画どおり1箇所の整備を行ったが、整備内容の変更により当初計画の事業費を下回り執行率が60.5%にとどまった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	災害時避難施設の内外部の補修及び機能強化工事(補助:1件)	目標	(—)	(2箇所)	(1箇所)	(1件)	
		実績	—	1箇所	1箇所	1件	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	目標どおり、1箇所の機能強化工事の支援を行った。災害時に備えるため避難所の床張替え、調理室改修工事を行い災害時避難施設の機能強化を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R1年度)
			目標	()	(整備の完了)	()	()
	実績		整備の完了				
	【R1成果目標】 整備された避難所を活用した避難訓練の実施(年1回)により、本事業を検証する。	目標					(1回)
進捗状況説明	避難所整備を1件完了したことにより、目標を達成できた。なお、令和3年度までに11箇所の整備を予定しており、平成30年度末時点で8か所の整備が完了している。また、平成29年度までに整備された7箇所において防災訓練を1回実施した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今回補助した1件について、自治会内での協議に時間を要し、結果として年度末完成となった。	令和3年度までに予定している残り3ヶ所の整備については、早期に事業が完了できる様に対象自治会のイベントなどの年間スケジュールを事前に把握し、事業完了までの日程調整をしっかりと行っていく必要がある。
今後の取り組み方針		
対象自治会のイベントなどの年間スケジュールの把握と、自治会との早期の日程調整により、日程どおり事業完了できるよう自治会と連携して進めていく。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,890	1,512	1,209	303	378



資金の流れ、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○町災害時等避難施設改修事業補助金交付要綱に基づき支出していることから妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業内容の変更により不用額が発生したものの、当初計画で避難施設の機能強化に関する必要費用として計上しており、予算規模は妥当であったと判断した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である兼城自治会が総事業費の2割を負担しており負担割合は妥当であったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。

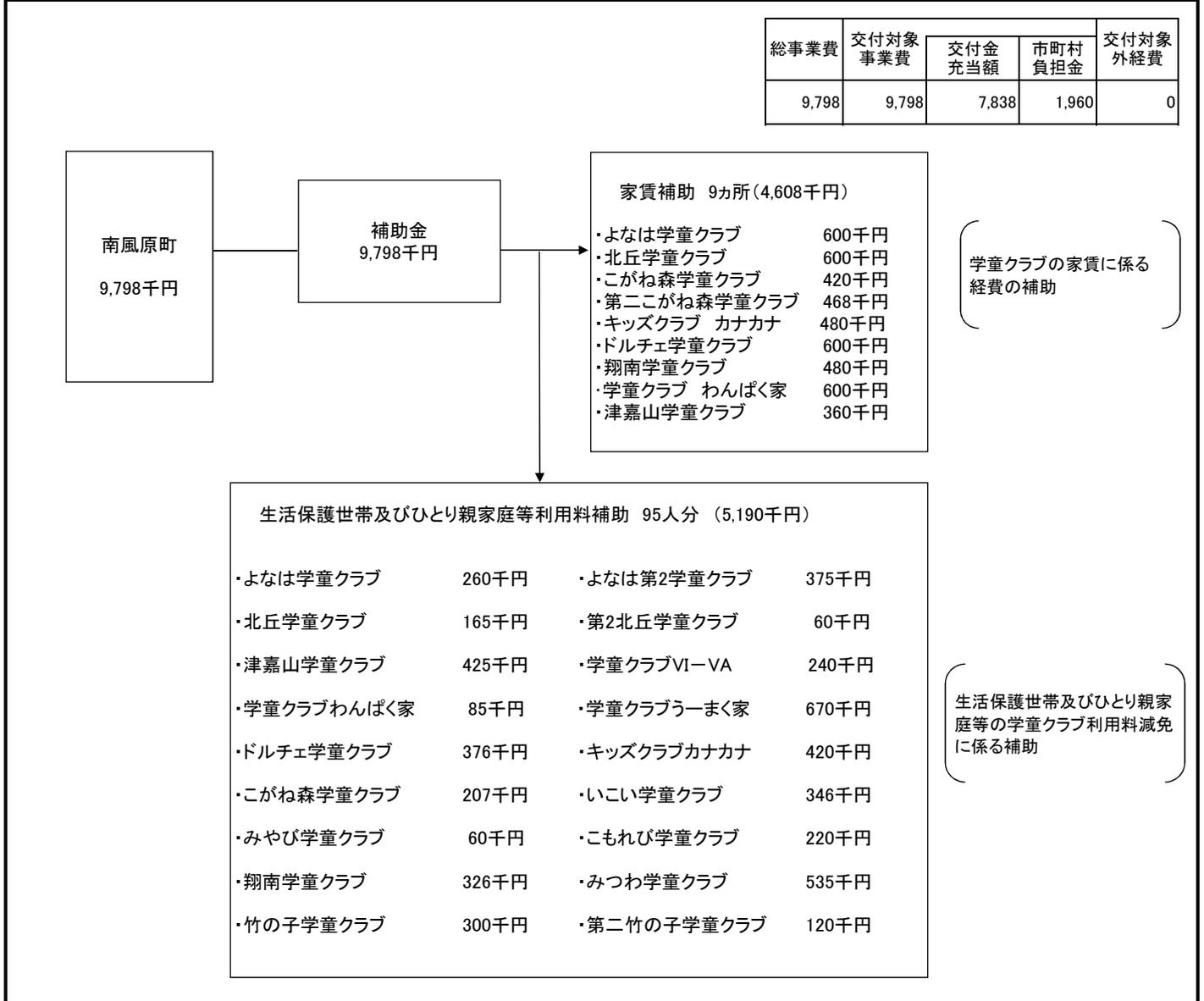
市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-① 放課後児童の居場所づくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
	担当部課名	民生部 子ども課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 Ⅲ-4	
事業内容	本町の民間の賃貸住宅等を利用している学童クラブに対して家賃の補助を実施する。また、学童クラブが生活保護世帯及びひとり親家庭等の学童利用者に対し利用料を減免した場合の補助を実施することで、安心・安全に子供を預けることができ、保護者の子育てへの負担感を軽減する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a) 当初予算額	2,310	7,530	8,010	8,160	9,468
	(b) 予算現額	2,310	6,506	7,046	7,996	10,209	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲1,024	▲964	▲164	741	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	2,310	6,506	7,046	7,996	10,209	
	B. 執行済額	2,270	6,108	6,761	7,568	9,798	
	うち交付金充当額	1,816	4,886	5,408	6,054	7,838	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	98.3%	93.9%	96.0%	94.6%	96.0%	
予算の状況の説明	学童クラブ利用支援補助を当初79人で予算を組んでいたが、実際の補助金申請で人数が上回った為、流用により対応をした。実績確認をした際に、途中退所や減免対象外になっていたケースがあり、実績で411千円の不用額が発生した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	(1) 家賃補助 基準値(H30):9ヶ所	目標	(7件)	(7件)	(7件)	(9件)	
		実績	8件	7件	7件	9件	
	(2) 生活保護世帯及びひとり親家庭等学童クラブ利用支援補助 基準値(H30):79人分	目標	()	()	(82人)	(79人)	
実績				73人	95人		
達成状況説明	賃借料を負担して民間施設等で運営を行っている9学童クラブに対して、負担軽減のため1ヶ月50,000円を上限で家賃補助を実施した。学童保育料の減免に対する支援については、昨年度より多くの減免対象者を支援することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
		安心・安全に子供を預けることができ、子育てへの負担感が軽減されたか(80%以上)を含め、対象となる児童の保護者へのアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	()	(80%以上)	()	()
		実績		80%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	学童保育料の減免を行うことで、ひとり親家庭や生活保護世帯が学童クラブに児童を預けやすくなった。その結果、安心・安全に子供達を預けることができ、仕事や家事に専念できるようになったことで子育てへの負担感が軽減された。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	学童保育料の減免に関しては、学童クラブの概要パンフレットにひとり親家庭等の減免内容を記載するなど制度の周知を行ったため、1人親家庭や生活保護世帯でも安心して学童を利用することが出来る結果となった。	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に子供を預けることができ、子育てへの負担感が軽減されたか(80%以上)の目標指標の達成を継続する。 ・また、アンケートの内容などを再確認し、減免を必要としている世帯の把握、学童クラブの運営安定化・環境改善など学童クラブに対してもアンケートを行うかどうか検討する必要がある。

今後の取り組み方針

学童保育料の減免補助の周知を継続して行うことやアンケート内容を検討する(アンケート対象者や内容など)ことにより、よりいっそう保護者が安心・安全に子供を預けられ、子育ての負担軽減が図れるよう取り組んでいく。
また、家賃補助は学童クラブの運営安定化や環境改善につながっているかを確認する必要があるため、現場などを確認して学童クラブの実態を把握する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実績、知識等を勘案した上で補助事業者(学童クラブ)を決定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業達成に必要な分の金額を支出し、妥当な額で実施している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金の上限を超える金額はクラブ負担であり、妥当で合ったと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時に支出等に関する書類により確認、適正であった。

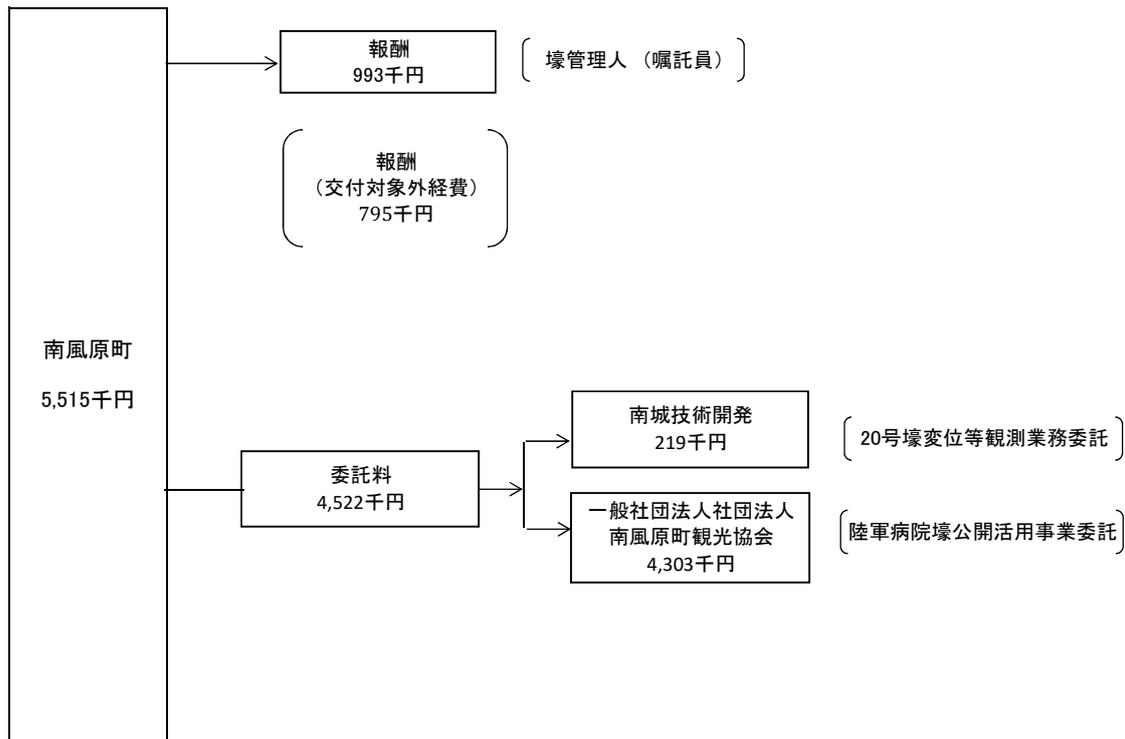
市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-① 陸軍病院壕公開活用事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア		
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
事業内容	沖縄陸軍病院南風原壕群の保存・活用を行うとともに、整備・公開している20号壕を訪れる見学者へのガイド案内を実施することで南風原町の歴史継承及び観光の誘客を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	11,603	6,515	6,705	6,766	6,992
	(b)予算現額	11,603	5,039	4,631	6,766	6,992	
	(c)増減額(b-a)	0	▲1,476	▲2,074	0	0	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	11,603	5,039	4,631	6,766	6,992	
	B.執行済額	10,776	5,039	4,631	4,822	5,515	
	うち交付金充当額	8,620	4,031	3,704	3,857	4,412	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	92.9%	100.0%	100.0%	71.3%	78.9%	
予算の状況の説明	不用額1,477千円は、来壕者数が減少したことによる南風原町観光協会への委託費649千円の減と消防設備点検委託料33千円の減、嘱託職員報酬のうち795千円を交付対象外経費にしたことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	開壕日数:313日	目標	(308日)	(308日)	(308日)	(313日)	
		実績	308日	308日	308日	309日	
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	見学者の要望を確認し、定休日でも開壕して目標達成に取り組んだ。しかし、例年より沖縄地方に多くの台風が接近したことで、見学団体のキャンセルが生じたことや臨時閉壕を行ったことにより、目標は達成できなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(24年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	見学者数 11,500人	目標	(9,804人)	(10,000人)	(11,500人)	(11,500人)	()
		実績		10,310人	8,801人	9,338人	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	見学者数は年ごと、月ごとに増減があり安定していない。平成30年度は台風の接近により、見学のキャンセルも相次いだことから見学者数が10,000人を割ってしまい目標を達成できなかったが、平成29年度よりは見学者数が増加している。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・見学者数の増減には修学旅行団体の動向が大きな影響を与えており、団体見学が減少すると一団体当たり80~120人程度の見学者数減となる。平成30年度においては、多くの台風が沖縄本島に接近したことにより、見学のキャンセルが相次いだことから、見学者数が伸び悩んだ。 ・一般公開を行っている20号壕は、壕内の風化による亀裂や剥離に対する接着剤を用いた保存措置を行うとともに、壕の保存策の継続した検討が必要になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行団体への周知とともに、修学旅行団体が集中しない月に見学者を集客する対策の実施が必要である。 ・病院壕のさらなる活用を図るために新たな見学ルートの策定や案内板の整備などを検討する必要がある。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行団体等が集中しない月(夏休みなどの長期の休み期間)は、各字の区長等に病院壕の情報提供を行い見学を促す。また、町内の各学校で実施している平和学習や出前講座時に、生徒達に親子で見学に来てもらえるよう情報提供を行う。 ・平成30年度に「沖縄陸軍病院南風原壕群および黄金森周辺戦跡活用について」、「沖縄陸軍病院南風原壕群20号現況調査について」の答申が南風原町文化財保護委員会より答申された。今後は、委員会を立ち上げ、この答申をもとにした活用計画の策定を行い、病院壕群の活用と保存に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,310	5,515	4,412	1,103	795



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託について、町の観光資源を活用する組織である南風原町観光協会と、これまでの実績と知識を勘案して選定した業者に随意契約で業務委託を行っており、妥当だと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○見学者数が目標を下回ったため不要額が生じているが、予算規模そのものは事業内容に見合った適正なものと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途について、事業目的の観点から必要なものか、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-② 子ども平和学習交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(1)-ア		
	教育部 生涯学習文化課		事業実施(予定)年度 平成24~令和3年度		地域を大切にし、誇りに思う健全な青少年の育成		
担当部課名					III-3-(2)		
事業内容	小学生6年生を対象に、戦争と平和、差別や人権等について事前研修や県外研修を実施し、施設見学、現地の人の交流を通して平和について広く学習する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(a) 当初予算額	2,588	2,729	1,969	1,385	1,428.0
	(b) 予算現額	2,588	2,970	1,659	1,084	1,052.0	
	(c) 増減額(b-a)	0	241	▲ 310	▲ 301	▲ 376.0	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	2,588	2,970	1,659	1,084	1,052.0	
	B. 執行済額	2,254	2,882	1,639	946	980	
	うち交付金充当額	1,803	2,305	1,311	756	783	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	87.1%	97.0%	98.8%	87.3%	93.2%	
予算の状況の説明	平成29年度同様本事業参加者数を8人にし、研修を予定通り終えた。計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。予算の減額は、旅費と印刷製本費、補助金の減額によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	子ども平和学習交流事業参加者数(8人)	目標	(24人)	(12人)	(8人)	(8人)	
		実績	24人	12人	8人	8人	
事前学習、本研修の後その報告会を開催	目標	(報告会を開催)	(報告会を開催)	(報告会を開催)	(報告会を開催)		
	実績	報告会を実施	報告会を実施	報告会を実施	報告会を実施		
達成状況説明	各小学校から6年生計8人が選考され、計画通り事前学習と本研修を終えることができた。また、研修終了後には役割分担をし、本研修の報告会を開催した。自分のやったこと、感想や意見を加えて発表する機会は大変良い機会になった。またそれぞれの報告書原稿をまとめるため、事前学習から本研修までの取り組みを整理し、学習のまとめを最終的に報告書として出版した。学校からの推薦にはじまり、初めての顔合わせから報告書作成まで、およそ8ヶ月に及ぶ関わりの中での事業で、小学校卒業後のOB会の活動へも繋がっている。人とのつながりを作っていくことも平和学習の理解につながり、広がりを見せている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)	
		参加児童の平和等に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケートにより本事業のあり方を検証する。	目標	(80%以上)	()	()	()
		実績	88%				
		目標	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	アンケートでは、「親も子どもたちと一緒に戦争のことを学び、すごく勉強になった」「限られた人数だけではなく、興味を持った少しでも多くの子どもたちにチャンスがあった方が良い」「自分の子どもと真剣に向かい合ってくれてありがたいと思う」「飯上げ体験は五感を使った刺激になった。続けて欲しい。」「個人負担額を増やしてでも続けて欲しい事業」「行政の中では人間らしく子どもたちとたくさんの方が繋がるあまりない内容の事業」「ニュースや新聞を真剣に見るようになった」「兄弟や周りの人たちへ思いやりを持つようになった」などの反響が寄せられた。子どもたちの変化も真摯に受け止め、大切に事業を継続していきたい。						

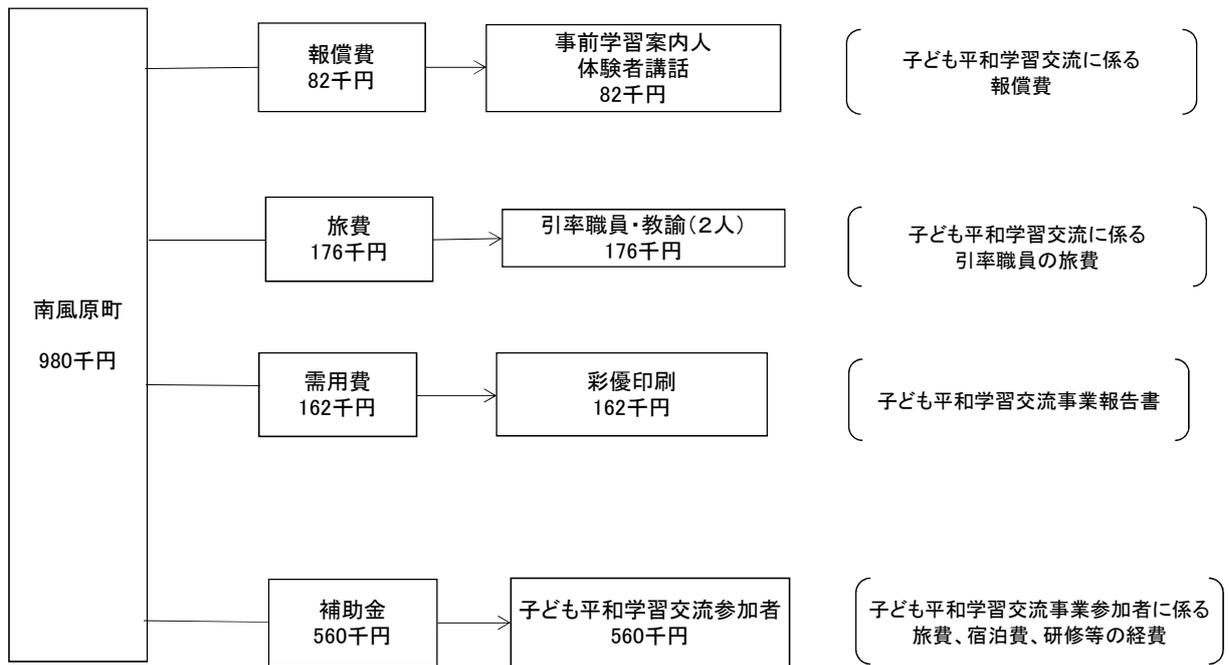
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが学習したことを記録したり、仲間たちとの意見交換を通して考えたこと等を継続して自分の言葉で表現できるようにしたい。また、証言や説明内容を正しく理解できたかその都度確認する。 戦争の歴史から平和とは何かを考え、また人権や差別について、当事者意識を持たせるようにするため、情報や学習機会を継続的に提供することが必要だと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習後、振り返りの時間をできるだけ作り、参加者それぞれが理解したことを確認しながら学習を深めたい。そのためにそれぞれが自分のことばでまとめる力と発表したり意見交換をさせる。 戦争の歴史、日常生活の中の社会問題にも関心を高められるよう、同世代と語り合ったりする場を子ども平和学習交流事業のOB会を利用するなどしてできるだけ作りたい。

今後の取り組み方針

・事前学習や本研修の学習だけでなく、事後の学習にもさらに力を入れて取り組めるように促していく。
 ・子ども平和学習交流事業のOB会とのつながりを強化し、意見交換をさせるなど、学習の機会を増やしていく。また、OB会との交流や活動に対しての要望もあることから、部会やグループに分かれて、それぞれの分野の活動を構築し、展開できる仕組みを検討したい。
 ・映写会や展示会など、子どもたちも参加できるような機会があれば、情報提供していきたい。保護者からも、学習の継続を希望する声もあり、OB会では、自主活動もできるような積極的な関わりと、学習の継続に向けて、関わっていききたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
980	980	783	197	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業に必要な旅費、現地経費を見積もり等を精査し支出した。参加者(補助金)の選定は学校長推薦により行い適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業達成に必要な金額を支出し妥当な額で実施している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係については、南風原町子ども平和学習交流事業実施要綱に基づき自己負担を徴収しており妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途が事業目的である、研修先への旅費、交流に必要な経費として目的に即している。

市町村名	南風原町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-③ 伝統芸能保存育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ウ			
担当部課名	教育部 生涯学習文化課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化活動を支える基盤の形成		
事業内容	伝統芸能保持団体である自治会の道具・衣装・楽器等の備品購入に対し補助金を交付し、伝統芸能の保存・継承を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(b)予算現額	3,000	3,000	3,000	3,000	1,000
	(c)増減額(b-a)	0	▲1,000	▲2,683	0	▲500	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	3,000	2,000	317	3,000	500	
	B.執行済額	2,970	1,647	316	2,389	454	
	うち交付金充当額	2,376	1,317	253	1,911	363	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.0%	82.4%	99.7%	79.6%	90.8%	
	予算の状況の説明	当初計画通り、1自治会への補助を実施した。また実績が見込額を下回ったため、3月補正で500千円を減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	伝統芸能保存育成補助件数 1件	目標	(6件)	(3件)	(3件)	(1件)	
		実績	4件	2件	4件	1件	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	町内の伝統芸能継承を推進するため、1自治会へ伝統芸能保存や継承への取組に必要な衣装・楽器・道具の購入に対する補助金を交付した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
		補助団体による伝統芸能上演等回数 17回	目標 (55回)	(34回)	(51回)	(17回)	()
		実績		34回	68回	34回	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	補助を受けた自治会は、「十五夜あしび」や「新年宴会」を開催して伝統芸能の保存・継承に取り組んでおり、目標の17回を大幅に上回る34回の伝統芸能上演等を行った。					

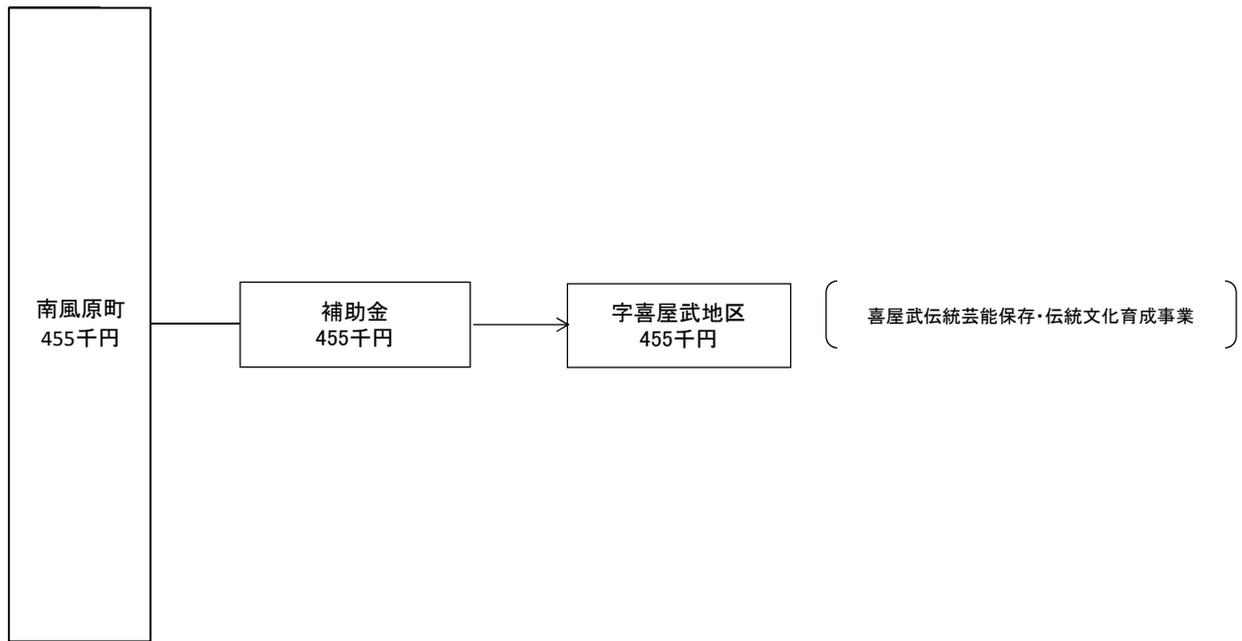
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	補助を受けた自治会が伝統芸能の保存・継承に取り組んだ結果、目標を達成することが出来た。今後も伝統芸能継承を推進させるため、自治会と連携を密にし計画的に道具や衣装等を購入できるようにする。	上演の機会を増やすことで、伝統芸能の意義、楽しさを普及させる取り組みを行っていく必要がある。

今後の取り組み方針

伝統芸能は、地域の若者たちへの郷土愛を育て、地域の歴史も学びながら地域の中で世代間のコミュニティをとる手段にもなっている。自治会や芸能関係団体等と相談し、上演の機会を確保することで、各々の伝統芸能への関心を高め、後継者を育成していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
455	455	363	92	0



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金支出先は各自治会に限定されるため妥当である。 ○予算規模は事業に要する費用であり適正だと考えている。 ○受益者との負担関係については、伝統芸能は町が保護育成し活用すべきであるとの認識で受益者負担無しで実施しており、妥当であると考え。 ○補助金の使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について南風原町振興特別推進交付要綱に基づき額の確定時において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		南風原町				
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	6-④ 南風原町海外移住者子弟研修生受入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア	
	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)	
担当部課名	教育部 生涯学習文化課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		
事業内容	それぞれの生まれ育った国や地域への理解を深め、海外と本町を結ぶ懸け橋となる人材育成を図るため、南風原町出身の海外移住者子弟を研修生として受け入れ、移民の歴史や相互の文化及び歴史の学習を実施する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(a)当初予算額	1,900	3,903	2,095	3,008
	(b)予算現額	1,900	2,303	1,595	2,370	859
	(c)増減額(b-a)	0	▲1,600	▲500	▲638	▲1,145
	(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A.計(b+d)	1,900	2,303	1,595	2,370	859
	B.執行済額	1,573	2,266	1,579	2,295	859
	うち交付金充当額	1,258	1,813	1,263	1,836	686
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	82.8%	98.4%	99.0%	96.8%	100.0%
予算の状況の説明	予算の減額はブラジル研修生が申請後に都合によりキャンセルとなり1名分減になったためである。事業内容は予定通り実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況				
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	受け入れ国の数1カ国(アルゼンチン)	目標	(3カ国 ハワイ・ペルー・ブラジル)	(2カ国 ペルー・ブラジル・アルゼンチン)	(3カ国 ハワイ・ペルー・ブラジル)	(1カ国 アルゼンチン)
		実績	3カ国 ハワイ・ペルー・ブラジル	1カ国 アルゼンチン	3カ国 ハワイ・ペルー・ブラジル	1カ国 アルゼンチン
	受け入れ研修生の数(1人)	目標	(5人)	(2人)	(4人)	(1人)
		実績	4人	2人	4人	1人
	研修成果の報告会を開催	目標	(報告会の開催)	(報告会の開催)	(報告会の開催)	(報告会の開催)
実績		報告会の実施	報告会の実施	報告会の実施	報告会の実施	
達成状況説明	研修生はアルゼンチンから一人を受け入れ、日本語、紅型、料理、陶芸などの研修を行った。研修終了後は、帰国前に研修成果の報告会を開催し、関係者にその成果を披露することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
		目標	()	(80%)	(80%)	(80%以上)
	実績		100%	100%	100%	
	目標	()	()	()	()	()
	実績					
進捗状況説明	研修後に実施したアンケートでは、「祖父のアルゼンチンへの移民がどれほど重要であったか、沖縄の親戚たちをどう助けてきたかを知りませんでした。」「私はもっと日本語が上手になりたいです。そして私自身のことをよりよく表現できるかと思っています。日本語には、同じ意味のたくさんの言葉があり、表現が豊富にあります。」「このプログラムは、沖縄の子弟、特に私にとってはとても重要でした。私の家族は歴史も浅くアルゼンチンにだけいるものだと思っていて、少ない家族だと思っていました。このプログラムで私の祖父母のふるさとへ来て、豊かで大切な歴史や文化があることを学ぶことができました。」等の意見が寄せられた。					

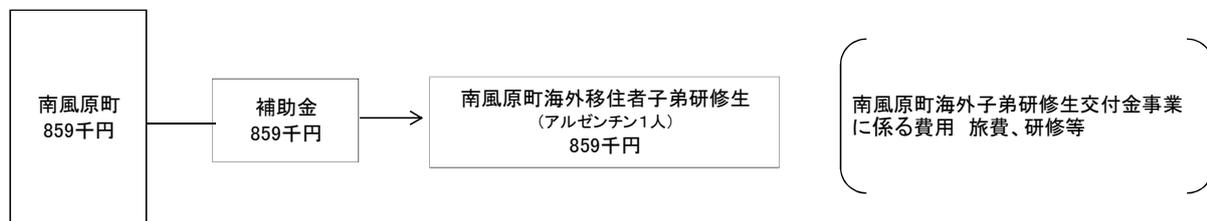
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・研修生は沖縄の文化や歴史に興味を持ったようだが、疑問もあるようなため、自国と日本または沖縄との文化や習慣の違いについて理解する必要がある。</p>	<p>・個別の解説や理由をできるだけ説明する。また研修生自ら情報収集できるようにアドバイスをを行う。研修後も情報収集に協力する。</p>

今後の取り組み方針

令和元年度は事業が無いため、今後のこの事業の派遣先の町人会ともよく相談し、事業趣旨を踏まえながら、新しい展開ができるようにしたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
901	859	686	173	42



資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は南風原町出身の海外移住者のみと限定しており、支出先として妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業達成に必要な分の金額のみを支出し、妥当な額で実施している。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係については、南風原町海外移住者子弟研修生受入事業実施要綱に基づき自己負担を支出しており妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途が事業目的に即している。

市町村名		南風原町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-① 長寿県復活食の応援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(1)-ア		
	担当部課名	民生部 保健福祉課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の食や風土に支えられた健康づくりの推進 Ⅲ-4	
事業内容	将来の生活習慣病の予防に向け、町内の小学校5年生及び中学校2年生を対象に生活習慣病予防健診及び健診結果説明会を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	4,959	5,558	7,068	4,022	3,363
	(b)予算現額	4,959	5,558	4,502	2,300	2,184	
	(c)増減額(b-a)	0	0	▲2,566	▲1,722	▲1,179	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	4,959	5,558	4,502	2,300	2,184	
	B.執行済額	4,747	5,109	4,501	2,224	2,144	
	うち交付金充当額	3,797	4,086	3,600	1,779	1,714	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	95.7%	91.9%	100.0%	96.7%	98.2%	
予算の状況の説明	学童期の生活習慣病予防健診受診者が当初の見込みを下回ったため、補正により1,179千円の予算減額を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	学童期における生活習慣病予防健診の実施(対象者:町内の小学5年生及び中学2年生)	目標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実績	実施	実施	実施		
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	学童期における生活習慣病予防健診を小学5年生187人、中学2年生123人に実施することができた。また、生活習慣病健診後は健診結果説明会を開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
			()	(50%)	(80%)	(80%以上)	()
	将来の生活習慣病予防に向けた、食生活や生活習慣を理解できたか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業の在り方を検証する。	目標					
		実績		73%	76%	98.5%	
		目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	将来の生活習慣病予防に向けた食生活や生活習慣を理解できた割合については、生活習慣病予防健診を受診された児童・生徒とその保護者に対して、アンケート調査を実施した。202名からの回答を集計した結果、「理解できた」割合は98.5%であった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>目標が達成できた要因として、検診結果説明会で一般的な生活習慣や食習慣改善の講話のみでなく、自分の子どもの健診結果と照らし合わせながら学習させる内容にしたことで、生活習慣病予防に対する意識を高められたことが考えられる。今後も参加者の理解割合を維持していくことが必要と考える。</p>	<p>最新の知見をベースに、小学生や中学生または保護者世代の生活実態に合わせた健診結果説明会の内容にすることで食習慣等の振り返りがイメージしやすいように事業の組み立てを行う必要がある。</p>

今後の取り組み方針

生活習慣病健診後の健診結果説明会の講話内容として、小学生や中学生または保護者世代の生活実態に合わせた健診結果説明会の内容にすることで、食習慣等の振り返りがイメージ(教材等)しやすいように事業の組み立てを行う。また、部活動等で受診者(子ども)や保護者も多忙であるので、できるだけ多くの方が参加できるように検診結果説明会の開催時間等も工夫していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,144	2,144	1,714	430	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業にあたっては業者調査を実施。委託事業の要件に見合う業者が1ヶ所のみであったため、南風原町契約規則に基づき随意契約を行った。</p> <p>○不要額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途について精算段階で検査を実施しており、目的に則し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	